序

勝沼氏館跡は昭和４８年１２月に山梨県立ワインセンターを誘致する計画に伴い、緊急発掘調査として調査が行われ、中世の城館跡であることが確認されました。発掘調査は昭和４８年から５２年までの間に７次にわたって行われ、その調査成果を受けて昭和５６年５月２８日に調査対象範囲および勝沼氏館の鬼門鎮守稲荷社の伝承がある尾崎宮神社境内を含む約５万㎡が国指定史跡となりました。その後、整備基本計画を策定し、昭和５８年度から平成４年度にかけて内郭部の環境整備、平成４年度から平成１７年度にかけて外郭域（東郭）の発掘調査および環境整備を行いました。旧塩山市、勝沼町、大和村が合併して「甲州市」となった現在も、その事業は引き継がれており、平成２０・２１年度には『史跡勝沼氏館跡外郭域発掘調査報告書』・『史跡勝沼氏館跡内郭部発掘調査報告書』を刊行して、これまでに行われた発掘調査の成果を広く巷間に周知してまいりました。

史跡指定から３０年近く経った今日までの間、史跡指定にご理解とご協力を頂いた住民の皆様をはじめとして、多くの方々のご尽力によりこれまでの整備を行うことができたことは言うまでもありません。しかしながら、史跡整備はまだ途上にあり、多くの課題が残されていることも事実であります。

さて、本書はこれまで史跡勝沼氏館跡で行われてきた環境整備事業をまとめたもので、勝沼氏館跡の概要、環境整備事業の経過、内郭部の整備、外郭域（東郭）の整備の４つの内容に分かれております。発掘調査の成果については前掲の報告書に譲りますが、環境整備事業は発掘調査の成果に基づいて行われたものでありますので、いうなればこの３冊の報告書は三位一体の性格を持っております。本書の記述は、なるべく本書の中で意味内容が完結することを心がけておりますが、記述の至らない点について詳細をお調べ頂く際には、前掲の２冊の報告書をお開きください。

結びとなりましたが、史跡勝沼氏館跡の発掘調査ならびに整備、そして本書の刊行に関わって頂きました多くの皆様、ご芳名を全て挙げることは叶いませんが、ご指導・ご協力に深く感謝申し上げる次第です。

平成２３年　３月３０日

甲州市教育委員会

教育長　古屋　正吾

例　言

1、本書は、山梨県甲州市勝沼町勝沼に所在する史跡勝沼氏館跡の環境整備事業の報告書である。

2、本事業は、史跡勝沼氏館跡の環境整備事業として文化庁及び山梨県教育委員会から補助金を受けて勝沼町教育委員会（現在は甲州市教育委員会）が実施したもので、合併して甲州市となった現在も継続中である。なお、一部に町単費で実施した事業も含まれる。

3、環境整備事業を行うにあたり、文化庁記念物課主任調査官・加藤允彦、本中眞の両氏より御指導を受けた。

4、内郭部の発掘調査については、山梨県教育委員会・勝沼町教育委員会・勝沼氏館跡調査団が行い、外郭域Ｆ・Ｇ区は勝沼町教育委員会及び甲州市教育委員会が行った。

5、本書の内容は、昭和５８年度から平成１７年度までのうち、環境整備工事が実施された昭和５８年度～平成４年度、平成８年度～平成１６年度の整備事業について報告したものである。

6、発掘調査成果については下記の報告書が刊行されているので参照されたい。

（本報告）

甲州市教育委員会　2008 年　『史跡勝沼氏館跡―外郭域発掘調査報告書（中世編）―』　甲州市文化財調査報告書第３集

甲州市教育委員会　2009 年　『史跡勝沼氏館跡―内郭部発掘調査報告書（中世編）―』　甲州市文化財調査報告書第５集

（概報）

山梨県教育委員会・勝沼氏館跡調査団　1975 年　『勝沼氏館跡調査概報』

山梨県教育委員会・勝沼町教育委員会・勝沼氏館跡調査団　1977 年　『勝沼氏館跡調査概報Ⅱ』

山梨県教育委員会・勝沼町教育委員会・勝沼氏館跡調査団　1978 年　『勝沼氏館跡調査概報Ⅲ　外郭部及び周辺地域の遺構確認調査』

勝沼町教育委員会　1996 年　『史跡勝沼氏館跡　平成４～７年度外郭域Ｇ地区発掘調査概報』

甲州市教育委員会　2006 年　『史跡勝沼氏館跡―平成８～ 17 年度外郭域Ｇ・Ｆ区発掘調査概報―』甲州市文化財調査報告書第１集

7、本書に掲載した図版は上記報告書から転載したもののほか、整備工事時に納品された計画図面を基に、入江が再トレースしたものを用いているが、第３章の第１節及び第２節で『勝沼氏館跡基本設計』から引用した図については、そのまま掲載した。

8、本書に掲載した写真は、勝沼町教育委員会撮影の写真、設計監理者・施工者の撮影した工事記録写真から選定して使用した。

9、本書の編集・執筆は甲州市教育委員会生涯学習課文化財担当の入江俊行が行った。

10、史跡勝沼氏館跡環境整備事業の実施及び本書の作成にあたっては、勝沼氏館跡整備検討委員会委員の秋山敬、小野正文、清雲俊元、田代孝、萩原三雄、畑野経夫の各位から御助言を賜り、文化庁記念物課、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター、山梨県立考古博物館、山梨県立博物館等の関係各機関の方々より御指導、御配慮を賜った。記して感謝申し上げます。

凡　例

1、勝沼氏館跡は内郭・東郭・北郭・北西郭の４つの郭から構成されると考えられるが、内郭を「内郭部」、東郭・北郭・北西郭を一括して「外郭域」と呼称する。外郭域のうち、地点を限定する場合においてそれぞれの郭名（「東郭」など）を用いる。

2、本書中に掲載された図版は、縮尺を統一していない。図中にスケールを示したが、模式図等については示していない。

3、本書第３図は甲州市都市計画基本図（１／２５００）を改変して使用した。

目　次

序
例言
凡例
目次

第１章　概　説
　第１節　地理的環境……1
　第２節　歴史的環境……2
　第３節　史跡指定と発掘調査……5
　第４節　遺跡の概要……6

第２章　事業の経過
　第１節　指導・助言……15
　第２節　年度別事業概要……15
　第３節　事業費……26
　第４節　整備検討委員会……26
　第５節　施工業者……28

第３章　環境整備の計画と施工（内郭部）
　第１節　環境整備基本方針……29
　第２節　内郭部環境整備基本計画……31
　第３節　遺構埋設保存……35
　第４節　遺構表示……35
　第５節　地形復元……45
　第６節　説明板設置……45
　第７節　東屋設置……46
　第８節　電気・給水……47
　第９節　トイレ・管理棟……47
　第１０節　導入路……48

第４章　環境整備の計画と施工（外郭域）
　第１節　外郭域環境整備基本計画……49
　第２節　遺構埋設保存……50
　第３節　遺構表示……50
　第４節　地形復元……56
　第５節　説明板設置……56
　第６節　東屋設置……57
　第７節　導入路……59
　第８節　駐車場……60

図版目次

第　1図　勝沼村慶長検地以前の地名復元図……3
第　2図　勝沼村正徳検地道路網図……4
第　3図　史跡指定範囲図……7・8
第　4図　1A期……9
第　5図　1B期……10
第　6図　2A期……11
第　7図　2B期……12
第　8図　3A期……13
第　9図　3B期……14
第10図　勝沼氏館跡調査区分図……16
第11図　内郭部　昭和58・59年度整備……17
第12図　内郭部　昭和60・61年度整備……18
第13図　内郭部　昭和62・63年度整備……19
第14図　内郭部　平成元・2年度整備……20
第15図　内郭部　平成3・4年度整備……21
第16図　外郭域　平成8・9・10年度整備……22
第17図　外郭域　平成11・12年度整備……23
第18図　外郭域　平成13・14年度整備……24
第19図　外郭域　平成15・16年度整備……25
第20図　勝沼氏館跡内郭部整備イメージ……30
第21図　整備の手順……31
第22図　土塁の整備……32
第23図　虎口の整備……32
第24図　遺構の保護と建物表示……33
第25図　塀の整備……33
第26図　内郭部整備計画図……34
第27図　水路・水溜……36
第28図　土塁……37
第29図　内堀……38
第30図　東門木橋……39
第31図　東門……40
第32図　建物表示……41
第33図　北門……43
第34図　石組遺構の復元……44
第35図　段差構造の復元……45
第36図　遺跡説明板設計図……46
第37図　東屋（SB06）……46
第38図　トイレ・管理棟設計図……47
第39図　建物表示①……50
第40図　建物表示②……51
第41図　SG02の復元（H10年度）……54
第42図　外郭域東郭整備地点における地形復元横断面図…56
第43図　遺構説明板・遺構名称板……57
第44図　東屋（SGB08）……58
第45図　木橋・階段……59
第46図　駐車場設計図……60

表目次

第1表　年度別発掘調査及び環境整備事業一覧表……5
第2表　事業費……26
第3表　開催日・講事……28
第4表　施工業者……28

写真図版目次

写真図版1　勝沼氏館跡の立地環境……61
写真図版2　内郭部整備状況（平成元年）……62
写真図版3　内郭部整備状況（平成4年）……63
写真図版4　外郭域東郭整備状況（平成16年）……64
写真図版5　昭和58年度整備……65
写真図版6　昭和58・59年度整備……66
写真図版7　昭和59・60年度整備……67
写真図版8　昭和60年度整備……68
写真図版9　昭和60年度整備……69
写真図版10　昭和60・61年度整備……70
写真図版11　昭和61年度整備……71
写真図版12　昭和61年度整備……72
写真図版13　昭和61・62年度整備……73
写真図版14　昭和62年度整備……74
写真図版15　昭和62年度整備……75
写真図版16　昭和62・63年度整備……76
写真図版17　昭和63年度整備……77
写真図版18　昭和63年度整備……78
写真図版19　平成元年度整備……79
写真図版20　平成元年度整備……80
写真図版21　平成2年度整備……81
写真図版22　平成2年度整備……82
写真図版23　平成2年度整備……83
写真図版24　平成3年度整備……84
写真図版25　平成3年度整備……85
写真図版26　平成3年度整備……86
写真図版27　平成3年度整備……87
写真図版28　平成3・4年度整備……88
写真図版29　平成4年度整備……89
写真図版30　平成4年度整備……90
写真図版31　平成4・8年度整備……91
写真図版32　平成8年度整備……92
写真図版33　平成8年度整備……93
写真図版34　平成9年度整備……94
写真図版35　平成9年度整備……95
写真図版36　平成9年度整備……96
写真図版37　平成9年度整備……97
写真図版38　平成9年度整備……98
写真図版39　平成10年度整備……99
写真図版40　平成10年度整備……100
写真図版41　平成10年度整備……101
写真図版42　平成10年度整備……102
写真図版43　平成10年度整備……103
写真図版44　平成10年度整備……104
写真図版45　平成11年度整備……105
写真図版46　平成11年度整備……106
写真図版47　平成13年度整備……107
写真図版48　平成13年度整備……108
写真図版49　平成14年度整備……109
写真図版50　平成14年度整備……110
写真図版51　平成15年度整備……111
写真図版52　平成15年度整備……112
写真図版53　平成15・16年度整備……113
写真図版54　平成16年度整備……114

第１章　概説

第１節　地理的環境

（１）立地

勝沼氏館跡は、甲府盆地の東辺、大菩薩峠に源を発する日川が御坂、秩父山地の山間地形から抜け、甲府盆地の沖積地との間に形成した日川扇状地の扇頂部にある。日川扇状地は大善寺の西付近を頂点とし、南は甲州市勝沼町下岩崎、上岩崎の坂下川を挟み京戸川扇状地と接し、北は勝沼町小佐手、休息の田草川を挟み鬢櫛川扇状地と接している。近世勝沼村は日川右岸から北の田草川との間にあり、西は等々力村、東は菱山村、柏尾村と接し、館付近（標高 421m）を頂点とし、日川に沿った一帯が高く北西に向かい緩やかに傾斜する地形をなしている。

館の主要郭は、日川が形成した高さ 20 mの右岸段丘崖に沿い配置されている。館が乗る段丘面は、柏尾との境にある御手洗沢の西から始まり、幅 150 m、長さ 800m の平坦面で、東から「夏秋」、「水上屋敷」、「御所」の字名となっている。この段丘面の北辺は、北東にある柏尾山（標高 739m）の山裾との間に形成された高さ 8m ほどの断崖となっており、この断崖は館の北東上町小公園（浄泉寺跡）で北に大きく向きを変える。この屈曲部の断崖上が葡萄の栽培地として早くから知られる字「上ノ山」・「鳥居平」である。断崖はそのまま北上し、字日休（矢羽根）の田草川左岸沿まで続く断崖に沿う一帯は近世には「東反保」とも呼ばれた窪地状の水田が広がっていた。

（２）水利

旧勝沼村の水利は、勝沼村の産土神で勝沼氏の氏神である雀宮神社（現勝沼中学校）に湧水地（弁天池）があったと伝えられ、これより上では井戸も数えるほどしかなく、専ら水田用水には次郎堰、飲料水には柏尾堰（深沢用水）が用いられていたという。次郎堰は日川水を取水する２番目の用水堰で、勝沼氏館跡内郭部の直下で取水し、段丘崖に沿い流下し、字宮町・堰合町で扇状地上にのぼり、さらに上堰と下堰の二流に別れ、それぞれ北流し田草川に至るもので、下堰は別に山県堰とも呼ばれ永禄５年（1563）山県三郎兵衛の命により造られたという伝承が残されている。柏尾堰（深沢用水）は大善寺の東側深沢川の水を取水し、大善寺山門前を横切り、館のある段丘面の北辺を流れ、館の北の甲州街道と小佐手小路（御先手小路）の交差点から小佐手小路に沿い北流する流れと、甲州街道に沿い、勝沼宿を西流する流れに二分されている。

（３）地名（第１図）

現在の甲州市勝沼町勝沼（近世勝沼村）の小字は、正徳５年（1712）「甲州山梨郡栗原筋勝沼村田畠検地水帳」及び「勝沼村一筆下絵図」（向山修家蔵）により、これ以降変化していないことが確認できる。さらに寛永１８年（1641）「勝沼村古来字名所」は慶長検地以前に使用されていた以下の地名を伝えている。

夏秋（なつあき）　西埜（うえのやま）　上ノ山（あがま）　東（あずま）　工屋（くや）　加賀屋敷（かがやしき）　向原（むかいはら）　中原（なかばら）　筋違（すじかい）　宮ノ上（みやのうえ）　猿林（さるばやし）　大塚（おおつか）　宮ノ下（みやのした）　西原（にしはら）

上境畑（かみさかいばた）　下境畑（しもさかいばた）　境田（さかいだ）　亀甲原（きっこうばら）　富士塚（ふじづか）　一輪久保（いちのわくぼ）　二輪久保（にのわくぼ）　三輪久保（さんのわくぼ）

これらの地名は、慶長６年（1601）検地の折、西埜を水上と御所、上之山を上之山と鳥居平、東を東と長遠寺、中原を新居と桜地蔵、筋違を筋違と井戸尻、猿林を板取窪と亀窪、宮ノ上を宮ノ上と宮ノ後、宮ノ下を宮ノ下と宮ノ前、西原を地蔵久保と願光寺と六左原と堰合、境田を南境田、亀甲原を北境田、一輪久保と二輪久保を上川久保に改められ、さらに元和８年（1622）に上境畑を上天神、下境畑を中天神に改められたという。正徳検地の字名はこれら二度の改名を受けた結果となっており、現在の小字図を元に、改名の経過をたどることにより、慶長検地以前の地名図を復元想定できる。これによれば慶長検地以前、勝沼氏館跡の一帯の字

は「西埜」で、原地となっていた可能性が考えられ、ここが慶長２年(1597)「御所御城跡改発被仰付村中ニ而仕候」(勝沼古事記)により開発が行われ、慶長検地の段階では耕地として検地対象地に組み入れられた経過が読み取れる。また、慶長検地以前の字名「西原」「東」など村の中心(小佐手小路、筋違付近)からの方位で命名され字名があるが、館を西埜と呼ぶことはこの視点とは異なっており、あるいは大善寺の年不詳武田晴信判物に大善寺領として「三貫文　佛供免　勝沼之屋敷」とあり、館廃絶後、一時大善寺領となり大善寺からの視点で西野と呼称されていた可能性も考えられる。

（4）街路（第２図）

旧勝沼村の道は、甲州街道（第２図Ａ）が館の北郭の北辺堀に沿い東西に通過したことにより、街道の一帯は大きく変化した。これ以外の道は正徳検地の折、作成されたと考えられる「勝沼村一筆下絵図」に記された道が、中世以来の道を受け継いでいると考えられる。この正徳古道中に、現在でも道路名が伝承されているものがある。館の北郭から北440ｍにある勝沼氏の菩提寺泉勝院まで間の道は「小佐手小路」(第２図Ｄ、「御先手小路」が変化したものか)でこれより北側は萩原道と呼ばれ、館の北郭北西隅付近から北西の東漸院までの間は「筋違往還」（第２図Ｃ）または「鎌倉街道」と呼ばれ、この道はさらに小佐手を休息山立正寺の北で「道者街道」と合流し、秩父方面に至っている。これとは別に「御巡見道（ごじゅんけんみち）」（第２図Ｂ）と呼ばれる旧雀宮の北側で分岐し甲州市勝沼総合庁舎の西を南下、黒駒から御坂峠方面に至る道も「鎌倉街道」と伝承されている。また、中原の通神社から東林院山の西裾を通り日休から台地上に登り、鳥居平を南下し、館の東で日川を渡り、上岩崎・下岩崎・藤井を抜け鈴郷の浅間神社山宮に至る道を通神社の御幸祭の折祭神が通る道として「通道」（第３図Ｅ）と呼んでいる。

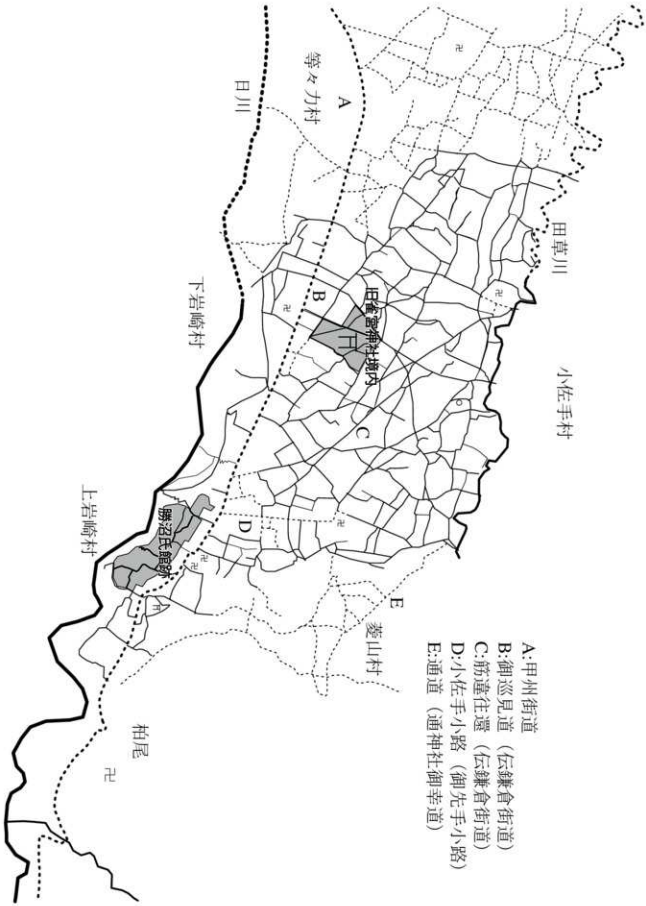
第２節　歴史的環境

勝沼氏館跡の東には、平安初期の薬師如来を本尊とし、弘安９年(1285)立柱の本堂建築がある大善寺があり、その境内域は、館の背後柏尾山の西麓から日川の河岸段丘上にもおよび、館は大善寺境内に隣接していると言っても過言ではない。館の北方小佐手小路(御先手小路)の突き当たりには勝沼氏の菩提寺泉勝院があり、勝沼信友の夫人勝月院智庵理鳳を開基とし、福正院殿光山輝公、長遠寺殿快翁道俊、崇正院殿華岳妙栄(信縄夫人)などの位牌と「三階菱」「圏内に花菱を亀甲の上に重ね付けたる」紋を付けた勝沼氏の遺品を伝えていた。北東柏尾山の西麓には勝沼氏の祈願所海蔵院、鬼門鎮守の尾崎明神、福徳稲荷社、北西には勝沼の産土神雀宮があり、勝沼五郎奉納の首鎧、太刀を伝えていた。勝沼に隣接した等々力には甲斐国の浄土真宗を代表する万福寺がある。

勝沼の南日川を隔てた岩崎には武田信光の子信隆を祖とし、寛正２年(1461)跡部氏との戦いで滅んだとされる岩崎館跡がある。坂下川を北の守りとし、三方に二重堀を巡らした方一町ほどの館跡があり、東には岩崎の産土神氷川神社があり、寛正２年(1461)の跡部氏の棟札を伝えている。北西には館のある小字立広を山号とすることから菩提寺と考えられる生福寺、祈願所の正宗寺などの社寺があり、館の南には岩崎氏の山城とされる蜂城山城があり、南東岩崎山の山頂には笹子峠と結ぶ茶臼山狼煙台がある。

勝沼の北、田草川を隔てた小佐手には、武田信重の子永信を祖とし、武田信虎に滅ぼされたという一町四方の区画として残る小佐手氏館跡がある。館跡の東には菩提寺東林院、館から移されたという稲荷社日宮が南西に、北東には祈願所林照院、産土神伏木神社がある。小佐手の西隣は休息で東身延と呼ばれた日蓮宗の立正寺がある。さらに鬢櫛川を隔てた北側山村・牛奥・中原・菱山は萩原道と黒川金山に至る黒川道の合流

第１図　勝沼村慶長検地以前の地名復元図
（上が北）



第２図　勝沼村正徳検地道路網図

点に当たり、牛奥八騎と称された武士団がいたとされ、田草川氏、内田氏などの屋敷跡が伝えられている。

第３節　史跡指定と発掘調査（第３図・第１表）

勝沼氏館跡は昭和４８年１２月に山梨県立ワインセンターを誘致する計画に伴い、緊急発掘調査として調査が行われた。調査は昭和４８年から５２年の間に７次に渡って行われ、その調査成果を受けて、昭和５６年５月２８日、調査対象範囲および勝沼氏館の鬼門鎮守稲荷社の伝承がある尾崎宮神社境内を含む約５万㎡が国指定史跡となった。

その後、昭和５７年に『勝沼氏館跡内郭部環境整備基本計画書』を作成し、昭和５８年度より内郭部および内堀の環境整備事業が開始された。この基本計画は昭和５９年度に文化庁の指導助言を受けて『勝沼氏館跡基本設計』に改定され、以降の整備はこれに準拠する。また整備に伴い、昭和５８年度と昭和６３年度にも補足調査が行われ内郭部に相当する部分の調査はほぼ終了している。引き続き平成４年～平成１７年にかけて外郭域の環境整備事業に伴う発掘調査が行われた。

第１表　年度別発掘調査及び環境整備事業一覧表

年度	発掘調査	整備工事	他
昭和48年度	A区トレンチ調査		
昭和49年度	A・B・C・D区		内郭の保存決定、ワインセンター予定地はC地区へ移動
昭和50年度	A・B・D区		『勝沼氏館跡調査概報』刊行
昭和51年度	A・B・D区		
昭和52年度	A・B・D区、E～I区トレンチ調査による館跡範囲確認		『勝沼氏館跡調査概報Ⅱ』刊行
昭和53年度			『勝沼氏館跡調査概報Ⅲ』刊行
昭和54年度			
昭和55年度			
昭和56年度			国史跡指定
昭和57年度			『勝沼氏館跡内郭部環境整備基本計画書』策定
昭和58年度	補足調査　D区	内郭部東半域遺構埋設保存	
昭和59年度		内郭部西半域遺構埋設保存	
昭和60年度		内郭部主要幹線水路の復元	
昭和61年度		水路・水溜、東辺内土塁の復元、テラス状地形復元	
昭和62年度		建物遺構の復元	
昭和63年度	補足調査　内郭内堀	内郭西半域遺構群と北辺内土塁の復元	
平成元年度		内郭西半域遺構群と北辺内土塁の復元	
平成2年度		東屋設置、電気・給水整備	
平成3年度		内郭内堀の復元	
平成4年度	H4G区	トイレ・管理棟設置	
平成5年度	H5G区		
平成6年度	H6G区		
平成7年度	H7G区		『史跡勝沼氏館跡平成4～7年度外郭域G地区発掘調査概報』刊行
平成8年度	H8F、H8G区	H4G～H6G区地形復元（南北家臣屋敷、堀、東郭東辺土塁、土塁臨溝）	
平成9年度	H9G区	北側家臣屋敷主屋（東屋）、（追加）南北家臣屋敷一帯の地形復元	H8F地区に駐車場（町単費）
平成10年度	H10G区	北側家臣屋敷馬屋、北側家臣屋敷排水路、南側家臣屋敷主屋、南側家臣屋敷井戸、幹線水路、南側家臣屋敷水場段差石積み、屋敷領域（生垣）、木橋3基、遺構名称板7基、遺構説明板1基	
平成11年度	H11G区	地形復元盛土、飲料水供給水路、排泥処理溝、出水路、受水槽改修石積、木橋2基	

平成12年度	H12G区	遺構名称板8基、遺構説明板2基	
平成13年度	H13G区	地形復元盛土、飲料水供給水路、排泥処理溝、（追加）石積井戸SGE06	地中レーダー探査
平成14年度	H13G、H14G区	地形復元盛土、2A・2B期の職人居住棟、木製品荒加工工房、金属加工工房、廃棄土坑、井戸、遺構名称板7基	
平成15年度	H13G、H14G、H15F区	地形復元盛土、東郭職人工房、飲料水供給水路、二重土塁・堀	
平成16年度	H15F、H16F区	堀の仕上げ舗装、遺構名称板5基設置、建物・堀舗装面と張芝との境に根切板を設置	
平成17年度	H15F、H16F区調査		『史跡勝沼氏館跡―平成8～17年度外郭域G・F地区発掘調査概報―』刊行
平成18年度			
平成19年度			
平成20年度			『史跡勝沼氏館跡―外郭域発掘調査報告書（中世編）―』刊行
平成21年度			『史跡勝沼氏館跡―内郭部発掘調査報告書（中世編）―』刊行
平成22年度			『史跡勝沼氏館跡―環境整備報告書―』刊行

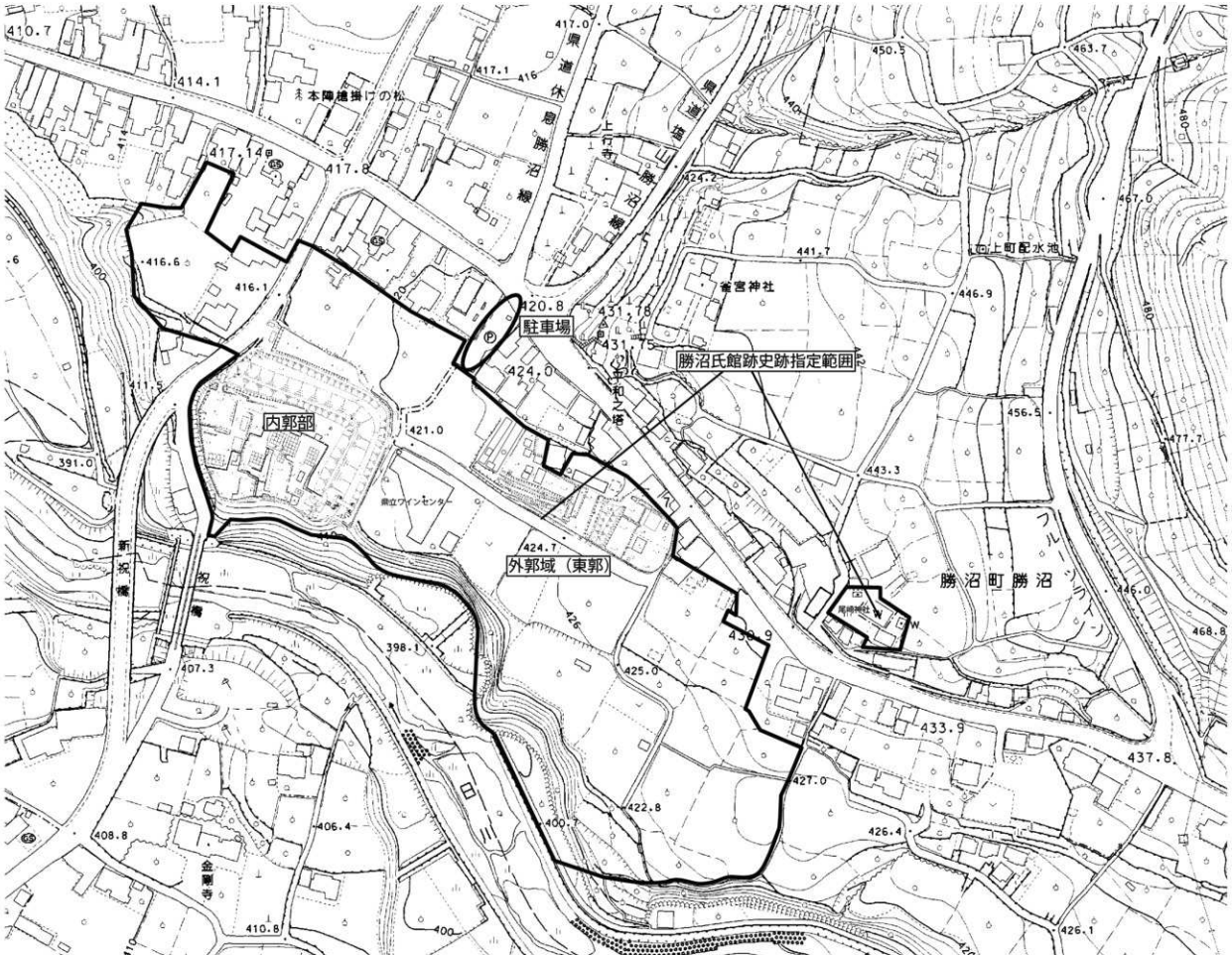
第４節　遺跡の概要（第４～９図）

勝沼氏館跡の郭構造は地表面観察と昭和５２年に実施した範囲確認調査によって、「内郭」・「北西郭」・「東郭」の３郭の存在が確認されていたが、その後、内郭と北西郭を分断する県道塩山市川大門線と甲州街道の上町交差点の改修工事に際して、交差点の南側で東西方向から南北方向に屈曲する土塁を伴う堀跡が確認された。この発見から、北西郭と町屋の中心街路である小佐手小路との間に郭が存在することが考えられたため、「北郭」とした。

館跡の中核部分である内郭は東西 90m 南北 70m の規模で、南面と西面は日川の急崖に面し、東面と北面は土塁と堀によって囲郭されている。北西郭は内郭から見て北西に位置し、内郭の外堀が屈曲して郭を形成している。西面は日川の急崖、南面は内郭内堀、北面と東面は堀と土塁により囲郭される。北郭は北西郭のさらに北側に位置し、小佐手小路の南端と接することから、館の北門（正門）があったと考えられる。南面は内郭外堀、北面と東面は堀と土塁によって囲郭されるが、西辺の区画は未だ確認されておらず、今後の検討課題である。東郭は内郭の東側に位置し、大規模な水溜や水路、屋敷跡、工房跡などが確認されている。南面は日川の急崖、西面は堀、東面と北面は土塁と堀によって囲郭されている。

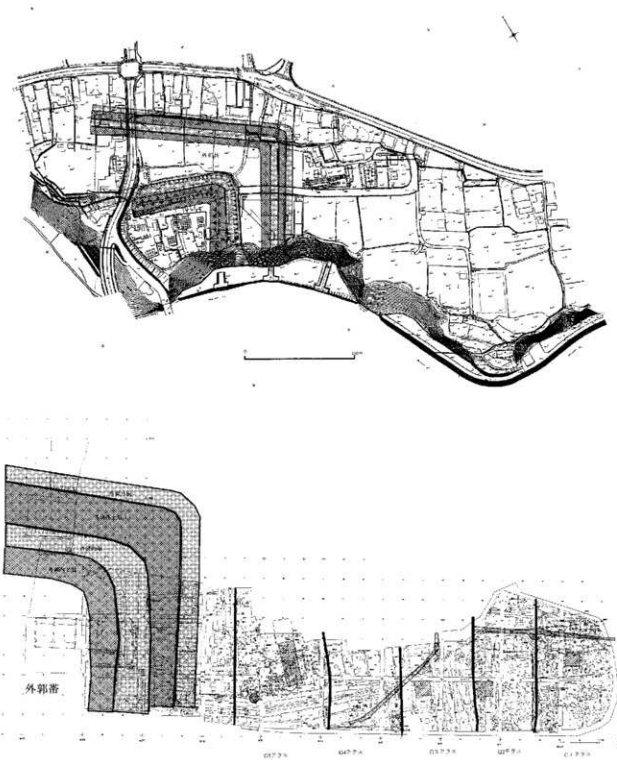
館の時期変遷は大きく３時期に分けられ、それぞれ２小期Ａ・Ｂに分けられる。第１期は１５世紀代、第２期は１６世紀前葉、第３期は１６世紀中葉以降と捉えられる。遺構からみると第１期は、内郭の出入り口が東門であった時期で、井戸を用いて取水を行っていたが、第２期になると外郭帯が北郭・北西郭・東郭に拡大し、内郭は二重の堀と土塁によって囲郭され防御性が高まる。内郭の取水は、東郭から内郭へ水路を通じて水が供給されるようになり、井戸が消滅する。またこれら内郭・外郭の大きな構造変化に伴い、内郭の出入り口が北西部分に移動するといった変化がある。第３期では内郭二重堀・土塁のうち、外側の堀・土塁が破壊され、その部分に新たに大型の掘立柱建物が建てられる。また東郭東辺堀が幅員を縮小させて、堀から水路に変化する。これらのことから、館の防御性が形骸化していたことが窺われる。

内郭部では第１期と第３期の両期の遺構について十分に調査することが出来なかった。第１期は土部遺構第２期相当遺構面保護のため、第３期は著しい破壊を受けていたためである。このため、比較的に施設の全

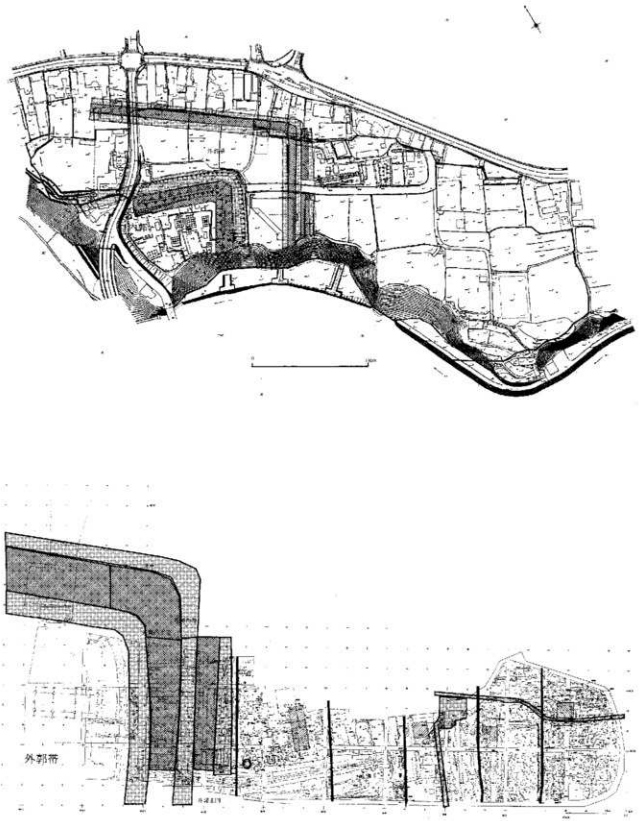

駐車場
勝沼氏館跡史跡指定範囲
内郭部
外郭域（東郭）
勝沼町勝沼
県道休息勝沼線
県道塩山勝沼線
上行寺
雀宮神社
上町配水池
平和之塔
本陣槍掛けの松
県立ワインセンター
新祝橋
祝橋
金剛寺
日川
フルーツライン

第３図　史跡指定範囲図

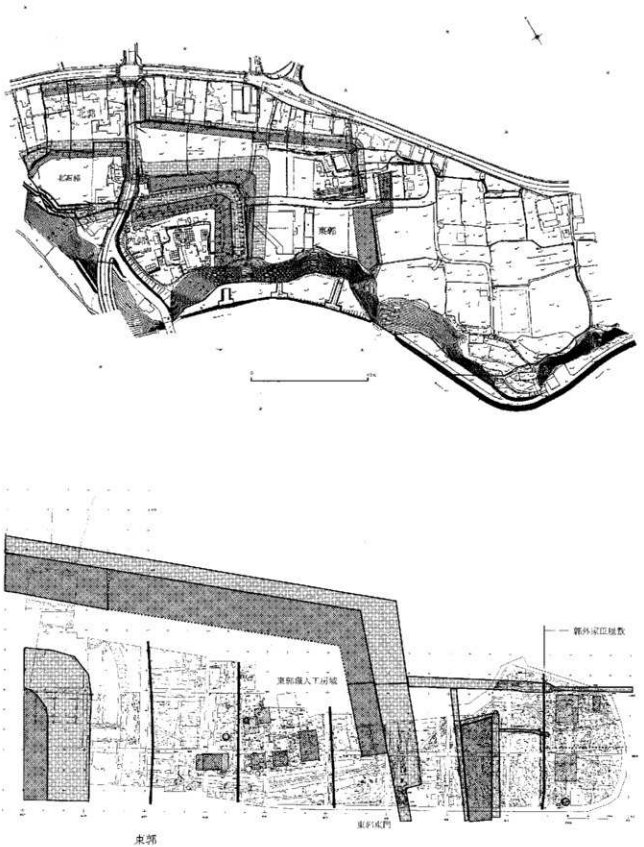
体像を把握することができた第２Ａ期遺構を遺構表示対象とし、第２Ｂ期遺構保護のため明確に出来なかった建物遺構がある場合には上部遺構を参考として表示を行った。外郭域（東郭）の史跡整備においても復元表示対象時期は基本的に第２Ａ期遺構としているが、外郭域で発見された水路ＳＧＤ３４は本遺跡の特色を示す遺構であることから、また第１Ａ・１Ｂ期の外郭内堀・外堀および外土塁も第２Ａ期における外郭域の大きな構造変化を示すことが出来ることから、いずれも表示対象としている。



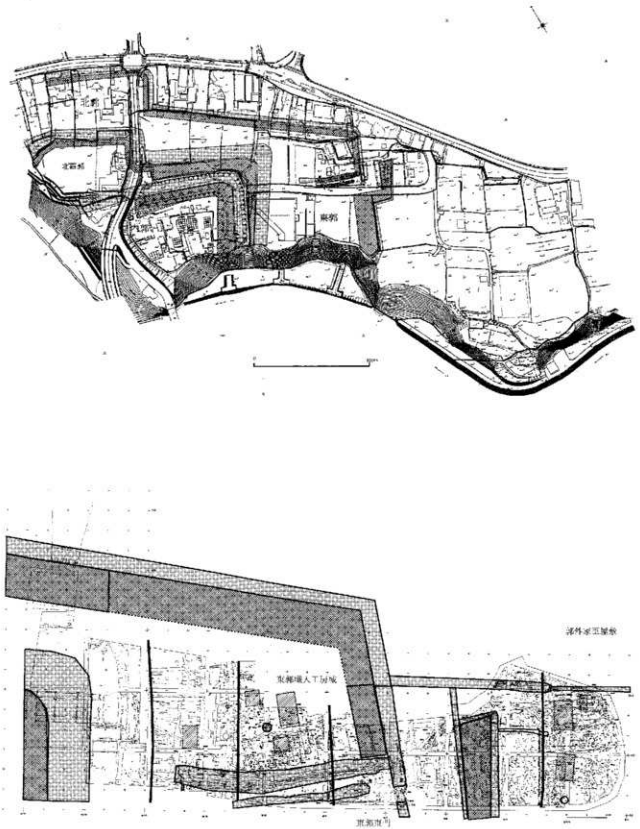
第４図　１Ａ期



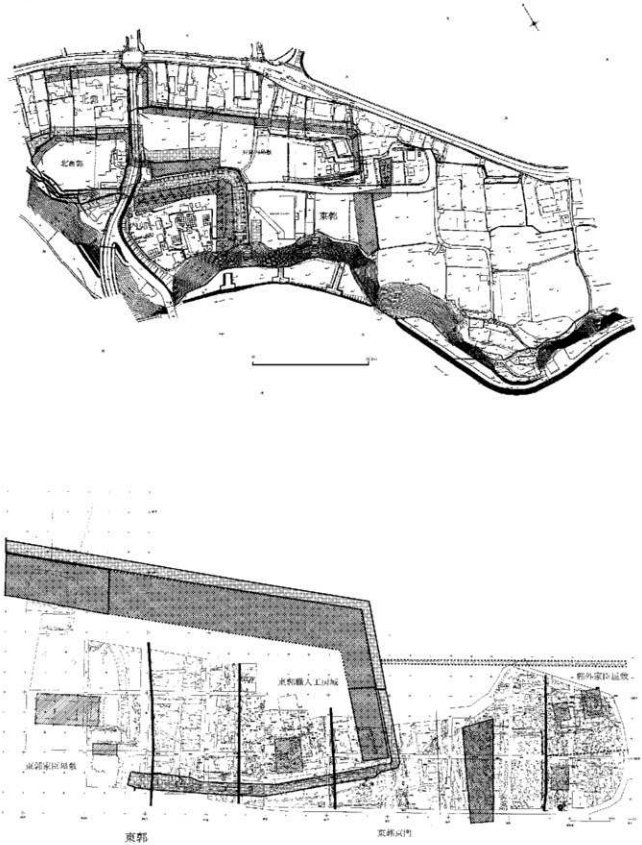
第5図　1B期



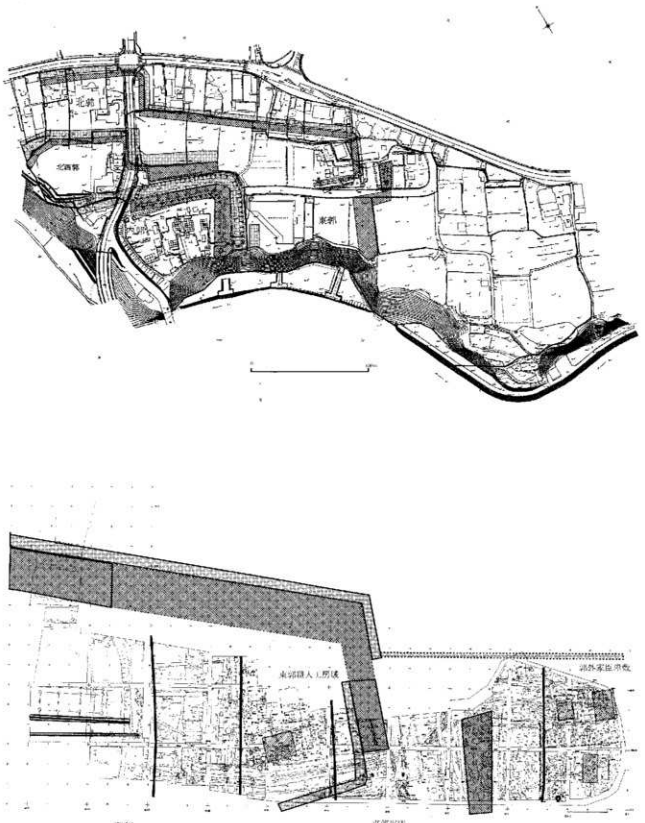
第6図　2A期



第7図　2B期



第８図　３Ａ期



第9図　3B期

第２章　事業の経過

第１節　指導・助言

内郭部の整備にあたり、昭和５７年に勝沼町教育委員会は㈱丹青社に委託して『史跡勝沼氏館跡管理整備基本計画』を立てた。これは福井県の朝倉氏館跡と同様に、遺構を露出展示する方針を示したものであったが、文化庁、県教育庁文化課から、遺構は保護層を設けて保存するための埋め戻しを行うこと、扇状地の傾斜地形を克服するために造成された段差構造や、それに付随する水路を整備するよう指導助言を受けた。

このような助言に基づき、昭和５８年に文化庁加藤允彦、県教育庁文化課末木健、勝沼町教育委員会室伏徹の３名が検討を行い、整備する遺構の時期は２Ａ期とし、整備すべき遺構の抽出論拠を個々に確認した。その検討結果を受けて、文化財保存計画協会に依頼して『勝沼氏館跡基本設計』をまとめた。

外郭域（東郭）は完全に耕地化されており、地表面から遺構の在り様を推定することが出来なかったため、発掘調査を実施した。その結果、ワインセンターの東に位置する土塁ＳＧＡ０１は北に延長しないこと、内郭部と同時期の建物が礎石建物ではなく掘立柱建物であったこと、内郭部水路への引き水のルートなどが判明した。そこで、平成７年に文化庁、学術文化財課の指導助言を得て、内郭部と同じ２Ａ期で整備すること、幹線水路を整備すること、勝沼氏館跡に特徴的な段差構造を表示するなどの整備方針を決定した。

第２節　年度別事業概要

（１）内郭部環境整備事業（第１０～１５図）

昭和５８年度　整備に伴う補足調査、内郭部西半域に残存していた土層観察用ベルト下部の調査。内郭部東半域遺構埋設保存。

昭和５９年度　内郭部西半域遺構埋設保存。

昭和６０年度　内郭部主要幹線水路の復元。溝ＳＤ０１・０３・０５・０６・２７・２８、水溜ＳＰ０２、石組ＳＸ１９を立体表示。排水路（Ｕ字溝）設置。

昭和６１年度　水路・水溜、土塁の復元、テラス状地形復元。溝ＳＤ０２・１３・１４・１６・１８、水溜ＳＰ０３・０４・０５、東辺内土塁ＳＡ０１を表示。排水路設置。

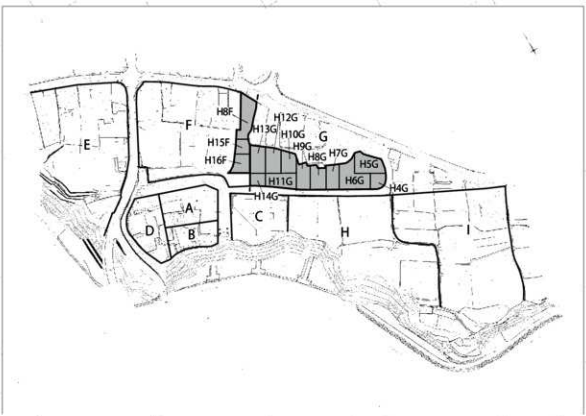
昭和６２年度　建物遺構の復元。建物ＳＢ０２・０３・０５・０８・１２・１４、郭内土塁ＳＸ１７、敷石ＳＺ１５を表示。

昭和６３年度　整備に伴う補足調査、内堀および内堀と外堀の間の北辺中間土塁の把握を目的としたトレンチ調査。西半域遺構群と北辺内土塁の復元。建物ＳＢ１９・２０、北辺内土塁ＳＡ０２（西半）、北辺土塁脇側溝ＳＤ１０、北門ＳＸ４５、石積ＳＸ４８、広庭ＳＣ０１、水路ＳＸ５２、石列ＳＸ５３を表示。北門橋脚設置。排水路設置。

平成元年度　西半域遺構群と北辺内土塁の復元。北辺内土塁ＳＡ０２（東半）、北門脇土塁ＳＡ０６、広庭ＳＣ０１を立体表示。北門木橋設置。生垣植栽。

平成２年度　東屋の設置と電気・給水設備。建物ＳＢ０６を東屋として復元。またその周囲の遺構である水溜ＳＰ０１、石組ＳＸ０１・０３、焼土ＳＳ０２・０３を表示。水路に木橋を６基設置。内郭部の維持管理・活用に供するため、電気および給水設備を配置。

平成３年度　内郭内堀ＳＨ０１・０２の復元。北門・東門復元。東門木橋設置。遺跡案内板、ベンチ設置。引水配管を行い、内郭部主要幹線水路に水を流す。



第１０図　勝沼氏館跡調査区分図

平成４年度　トイレ・管理棟設置、遺跡説明板設置、内郭内堀法面整形。

（２）外郭域環境整備事業（第１０図、第１６～１９図）

平成４年度　Ｈ４Ｇ区発掘調査。

平成５年度　Ｈ５Ｇ区発掘調査。

平成６年度　Ｈ６Ｇ区発掘調査。

平成７年度　Ｈ７Ｇ区発掘調査。『史跡勝沼氏館跡　平成４～７年度外郭域Ｇ地区発掘調査概報』を刊行。

平成８年度　Ｈ８Ｇ・Ｈ８Ｆ区発掘調査。Ｈ４Ｇ～Ｈ６Ｇ区地形復元のため盛土。東郭東辺土塁ＳＧＡ０１、土塁脇側溝ＳＧＤ１７・２２、堀ＳＧＤ１６を立体表示。

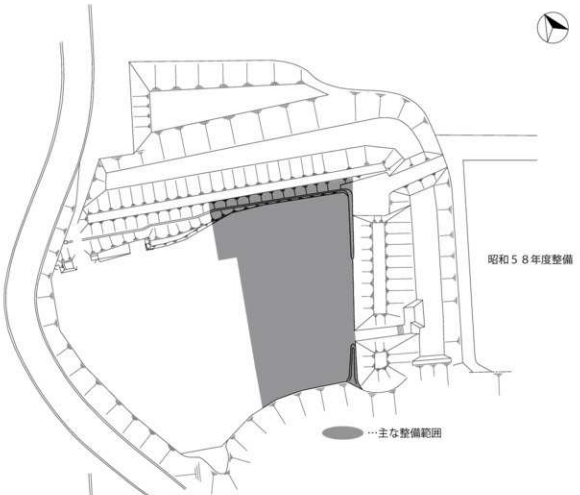
平成９年度　Ｈ９Ｇ区発掘調査。南北家臣屋敷一帯の地形復元のため盛土。北側家臣屋敷主屋ＳＧＢ０８を東屋として上部構造を復元して設置。Ｈ８Ｆ区に駐車場を整備。

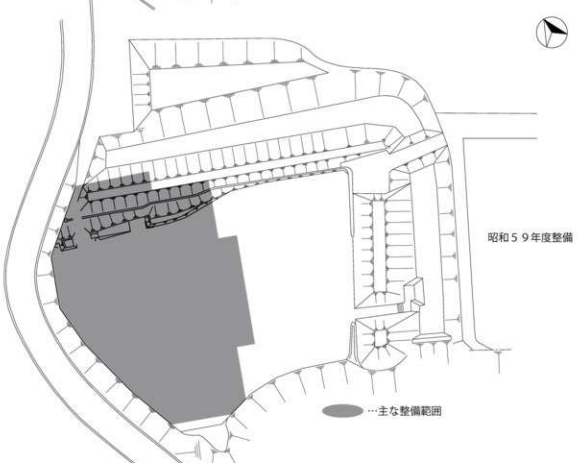
平成１０年度　Ｈ１０Ｇ区発掘調査。北側家臣屋敷馬屋ＳＧＢ１１、北側家臣屋敷排水路ＳＧＤ１２、南側家臣屋敷主屋ＳＧＢ０２、南側家臣屋敷井戸ＳＧＥ０２、南側家臣屋敷石積ＳＧＸ０１、幹線水路ＳＧＤ０５、各遺構を表示。木橋を３基設置。遺構説明板１基、遺構名称板７基設置。また、南北家臣屋敷の領域を生垣で表示。

平成１１年度　Ｈ１１Ｇ区発掘調査。Ｈ７Ｇ・Ｈ８Ｇ区地形復元のため盛土。堀（受水槽改修石積）ＳＧＰ０２、出水路ＳＧＤ３３、飲料水供給水路ＳＧＤ３４、排泥処理溝ＳＧＤ４２を表示。木橋２基設置。

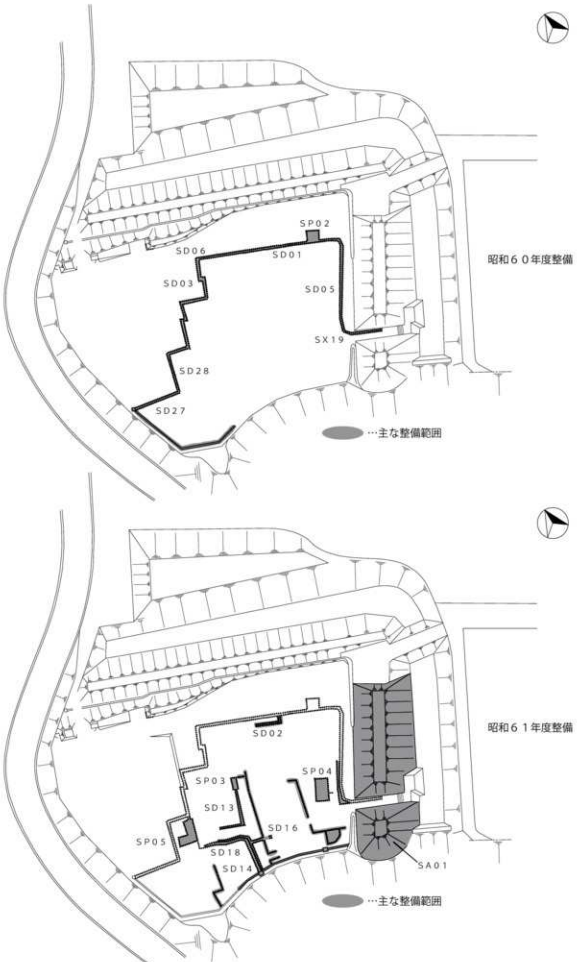
平成１２年度　Ｈ１２Ｇ区発掘調査。遺構説明板２基、遺構名称板８基設置。

平成１３年度　Ｈ１３Ｇ区発掘調査。Ｈ９Ｇ区・Ｈ１０Ｇ区東半部・Ｈ１１Ｇ区東端部地形復元のため盛土。ＳＧＤ３４およびＳＧＤ４２の延長部分を表示。第１Ａ期の石積井戸ＳＧＥ０６を希望者が見学可能となる

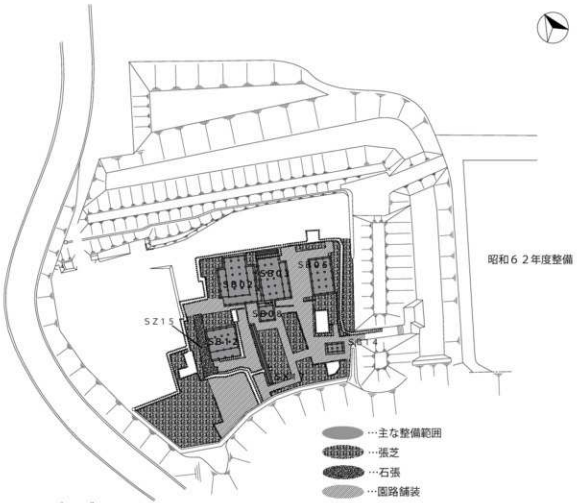


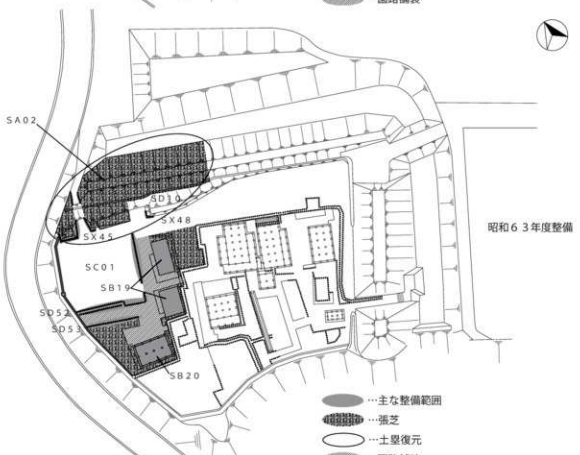


第１１図　内郭部　昭和５８・５９年度整備

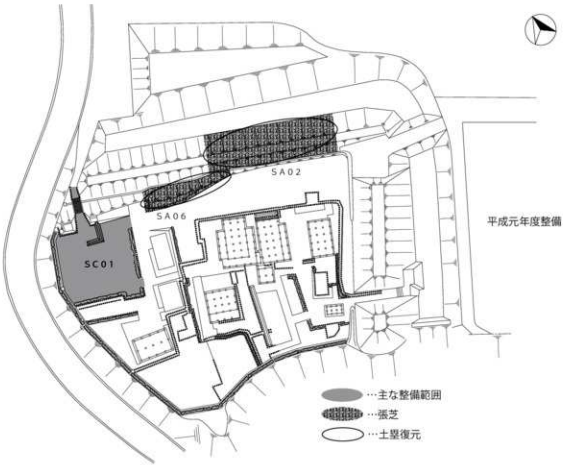


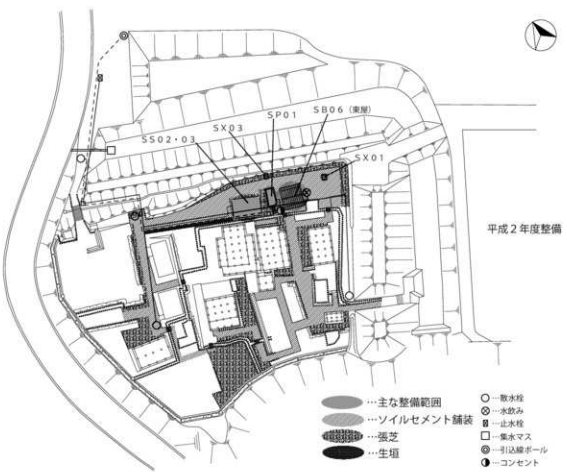
第１２図　内郭部　昭和６０・６１年度整備



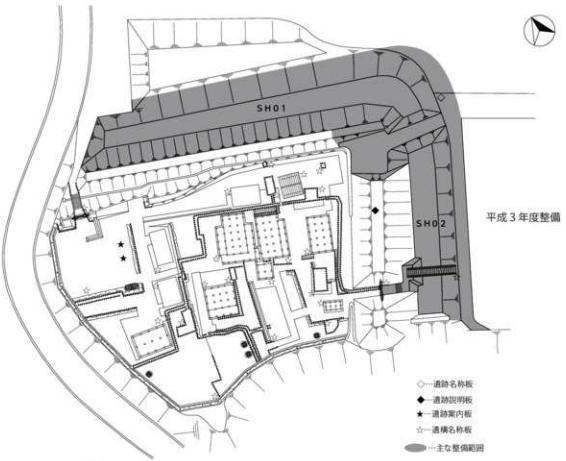


第１３図　内郭部　昭和６２・６３年度整備

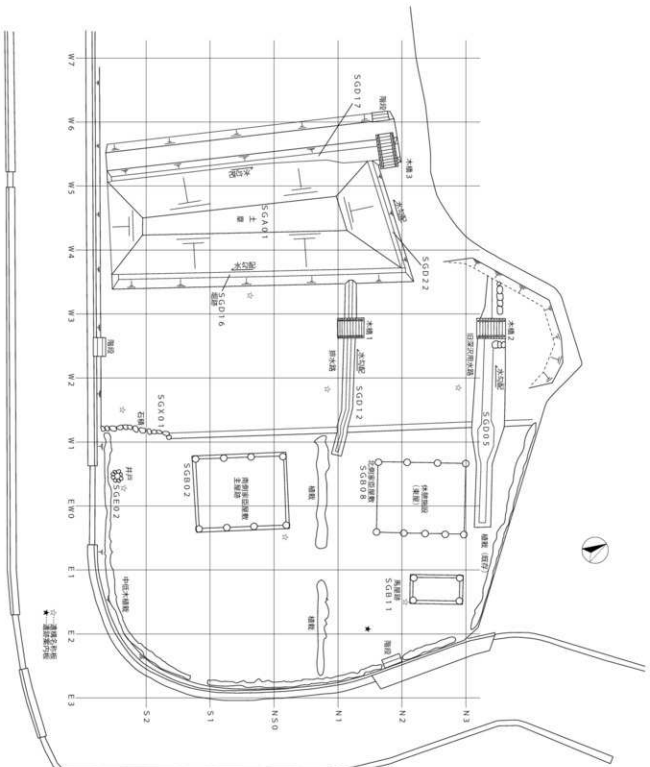




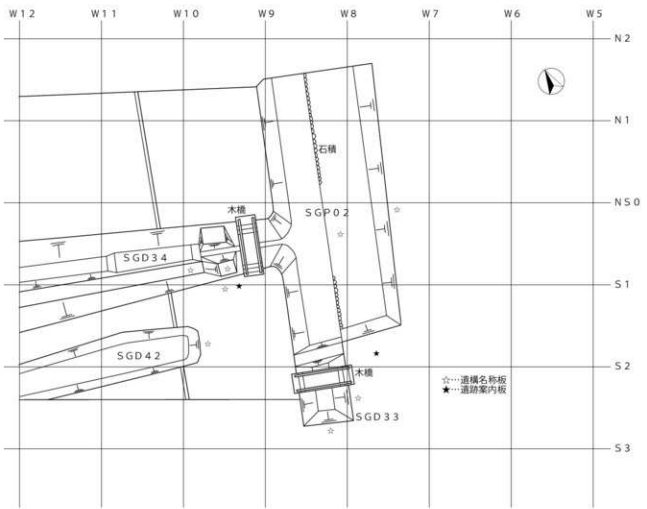
第１４図　内郭部　平成元・２年度整備



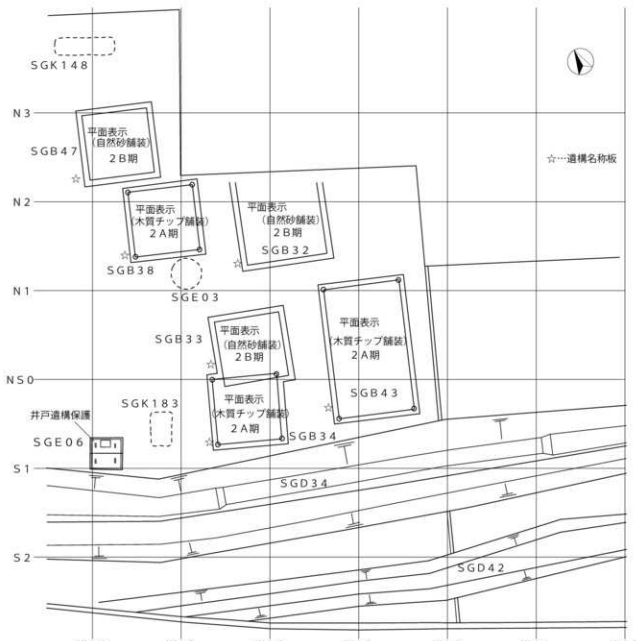
第１５図　内郭部　平成３・４年度整備



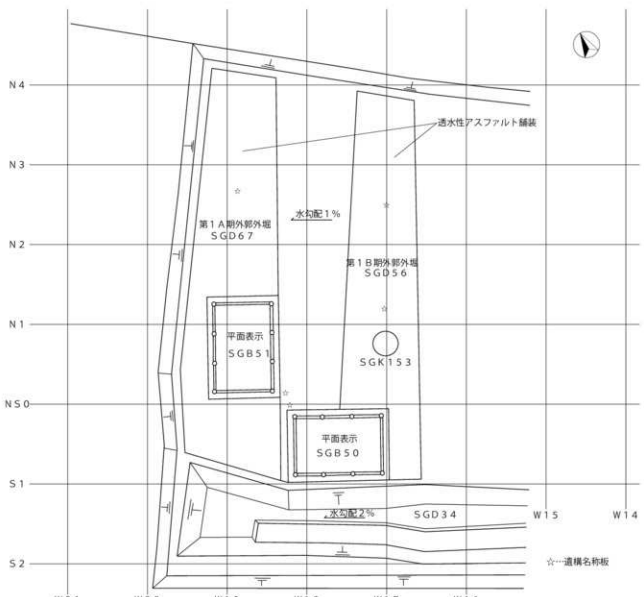
第16図　外郭域　平成8・9・10年度整備



第１７図　外郭域　平成１１・１２年度整備



第１８図　外郭域　平成１３・１４年度整備



第１９図　外郭域　平成１５・１６年度整備

ようにコンクリート枠・鉄板により被覆。未調査部分における堀の位置関係を調べるため地中レーダー探査を実施。

平成１４年度　Ｈ１３Ｇ区・Ｈ１４Ｇ区発掘調査。Ｈ１０Ｇ～Ｈ１２Ｇ地形復元のため盛土。前年度に引き続きＳＧＤ３４およびＳＧＤ４２の延長部分を表示。職人居住棟ＳＧＢ３２・４３、木製品荒加工工房ＳＧＢ３３・３４、金属加工工房ＳＧＢ３８・４７、廃棄土坑ＳＧＫ１４８・１８３、素掘り井戸ＳＧＥ０３を表示。遺構名称板を７基設置。

平成１５年度　Ｈ１３Ｇ・Ｈ１４Ｇ・Ｈ１５Ｆ区発掘調査。Ｈ１０Ｇ～Ｈ１２Ｇ地形復元。　ＳＧＤ３４およびＳＧＤ４２の延長部分を表示。木製品仕上げ工房ＳＧＢ５０・５１、第１Ａ期外郭外堀ＳＧＤ６７、第１Ｂ期外郭外堀ＳＧＤ５６、素掘り井戸ＳＧＫ１５３を表示。

平成１６年度　Ｈ１５Ｆ区・Ｈ１６Ｆ区発掘調査。ＳＧＤ６７・５６の仕上げ舗装。遺構名称板を５基設置。

平成１７年度　Ｈ１５Ｆ区・Ｈ１６Ｆ区発掘調査。『史跡勝沼氏館跡　平成８～１７年度外郭域Ｇ・Ｆ地区発掘調査概報』を刊行。

第３節　事業費

第２表　事業費

	土地買上事業費				環境整備事業費			
年度	補助対象経費	国庫補助金	県補助金	市町村費	補助対象経費	国庫補助金	県補助金	市町村費
昭和58	0	0	0	0	5,001,100	2,500,000	1,250,000	1,251,100
昭和59	0	0	0	0	4,708,000	2,354,000	1,177,000	1,177,000
昭和60	11,003,000	8,802,000	1,100,000	1,101,000	6,007,400	3,000,000	1,500,000	1,507,400
昭和61	25,420,000	20,336,000	2,542,000	2,542,000	13,840,000	6,920,000	3,460,000	3,460,000
昭和62	74,846,000	59,876,000	7,450,000	7,520,000	10,000,000	5,000,000	2,500,000	2,500,000
昭和63	2,977,000	2,381,000	298,000	298,000	10,020,000	5,000,000	2,500,000	2,520,000
平成元	0	0	0	0	11,227,000	5,613,000	2,807,000	2,807,000
平成2	12,500,000	10,000,000	1,250,000	1,250,000	10,000,000	5,000,000	2,500,000	2,500,000
平成3	12,500,000	10,000,000	1,250,000	1,250,000	20,000,000	10,000,000	5,000,000	5,000,000
平成4	53,018,000	42,414,000	5,302,000	5,302,000	20,022,891	10,000,000	5,000,000	5,022,891
平成5	0	0	0	0	5,000,000	2,500,000	1,250,000	1,250,000
平成6	30,000,000	24,000,000	3,000,000	3,000,000	5,896,177	1,250,000	625,000	4,021,177
平成7	40,000,000	32,000,000	4,000,000	4,000,000	3,029,552	1,250,000	625,000	1,154,552
平成8	41,480,000	33,184,000	4,148,000	4,148,000	25,000,000	12,500,000	6,250,000	6,250,000
平成9	0	0	0	0	26,415,047	12,500,000	6,250,000	7,665,047
平成10	31,070,000	24,856,000	3,107,000	3,107,000	21,925,924	10,000,000	5,000,000	6,925,924
平成11	25,004,000	20,000,000	2,500,000	2,504,000	21,712,361	10,000,000	5,000,000	6,712,361
平成12	30,172,000	24,137,000	3,017,000	3,018,000	15,579,311	7,500,000	3,750,000	4,329,311
平成13	0	0	0	0	20,967,684	10,000,000	5,000,000	5,967,684
平成14	0	0	0	0	20,530,045	10,000,000	5,000,000	5,530,045
平成15	40,000,000	32,000,000	4,000,000	4,000,000	20,013,360	10,000,000	5,000,000	5,013,360
平成16	50,400,000	40,320,000	5,040,000	5,040,000	10,036,686	5,000,000	2,500,000	2,536,686
平成17	42,069,000	33,655,000	4,207,000	4,207,000	11,133,942	5,500,000	2,750,000	2,883,942

	木製品保存処理事業費			
年度	補助対象経費	国庫補助金	県補助金	市町村費
平成10	2,000,000	1,000,000	500,000	500,000
平成11	2,000,000	1,000,000	500,000	500,000
平成13	2,000,000	1,000,000	500,000	500,000
平成15	1,000,000	500,000	250,000	250,000
平成17	2,000,500	1,000,000	500,000	500,500

第４節　整備検討委員会（第３表）

史跡勝沼氏館跡の調査整備活用に係る指導助言を得るため、調査整備委員会を設置し、平成17年３月23日に第１回委員会を開催し、５名の委員を委嘱し、役員の選出と現在までの経過説明、今後の会の進め方について協議を行った。

会長　清雲　俊元　中世史
副会長　田代　孝　中世考古
委員　萩原　三雄　中世考古
委員　秋山　敬　中世史
委員　畑野　経夫　古建築

その後、平成１７年１１月１日に塩山市・勝沼町・大和村の３市町村が合併して甲州市となり、組織・委員会設置要綱等が一新された。

（委員）小野正文・清雲俊元・萩原三雄・畑野経夫・田代孝・秋山敬・古屋正吾

史跡勝沼氏館跡整備検討委員会設置要綱

（設置）

第１条　甲州市勝沼町勝沼に所在する史跡勝沼氏館跡の保存、整備、活用に関する事業を円滑に、かつ効果的に実施するため、史跡勝沼氏館跡整備検討委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　委員会の所掌事務は次の通りとする。

（１）史跡勝沼氏館跡の調査成果の分析評価に関すること。

（２）史跡勝沼氏館跡の管理の指針及び整備に関すること。

（３）史跡勝沼氏館跡の歴史文化的環境の保全に関すること。

（構成）

第３条　委員会は、専門知識を有する学識経験者をもって組織し、教育委員長が委嘱する。

（会長）

第４条　委員会に会長を置き、委員の互選により選出する。

２　会長は、委員会の会務を総理し、会議の議長となる。

３　会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指定する委員がその職務を代理する。

（会議の招集）

第５条　委員会の会議は、会長が招集する。

（会議）

第６条　委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

２　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（庶務）

第７条　委員会の庶務は、教育委員会生涯学習課に置く。

（補則）

第８条　本要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

（付則）本要綱は、平成１９年１１月２７日から施行する。

第３表　開催日・議事

開催日	内容	名称	主体団体
平成17年3月23日	これまでの整備について経過説明、今後の整備の進め方について	史跡勝沼氏館跡調査整備委員会	勝沼町
平成17年5月26日	調査整備状況について現地視察、管理整備計画について	史跡勝沼氏館跡調査整備委員会	勝沼町
平成17年8月2日	外郭域調査状況について（時期区分、出土遺物年代など）	史跡勝沼氏館跡調査整備委員会	勝沼町
平成19年11月27日	史跡勝沼氏館跡整備検討委員会設置要綱制定	史跡勝沼氏館跡整備検討委員会	甲州市
平成20年7月18日	外郭域・内郭部発掘調査報告書について	史跡勝沼氏館跡整備検討委員会	甲州市
平成20年9月25日	外郭域・内郭部発掘調査報告書について	史跡勝沼氏館跡整備検討委員会	甲州市
平成20年11月25日	外郭域・内郭部発掘調査報告書について	史跡勝沼氏館跡整備検討委員会	甲州市
平成21年1月16日	外郭域発掘調査報告書の進捗状況について	史跡勝沼氏館跡整備検討委員会	甲州市
平成21年6月9日	外郭域発掘調査報告書刊行の報告、内郭部発掘調査報告書の原稿執筆依頼	史跡勝沼氏館跡整備検討委員会	甲州市
平成22年1月26日	内郭部発掘調査報告書の進捗状況について	史跡勝沼氏館跡整備検討委員会	甲州市

第５節　施工業者

第４表　施工業者

年度	委託内容	業者名
昭和58年度	整備工事	（有）峡東建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
昭和59年度	整備工事	（有）峡東建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
昭和60年度	整備工事	（有）峡東建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
昭和61年度	整備工事	（有）峡東建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
昭和62年度	整備工事	（有）峡東建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
昭和63年度	整備工事	（有）峡東建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
平成元年度	整備工事	（株）高野建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
平成2年度	整備工事	（株）高野建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
平成3年度	整備工事	（株）高野建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
平成4年度	整備工事	（株）高野建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
平成5年度	空撮	（株）東京航業研究所
平成6年度	空撮	（株）一瀬調査設計
平成7年度	空撮	（株）一瀬調査設計
	概報印刷	（有）天野印刷所
平成8年度	整備工事	（株）高野建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
	空撮	（株）一瀬調査設計
平成9年度	整備工事	（株）高野建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
	空撮	（株）一瀬調査設計
平成10年度	整備工事	（株）高野建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
	空撮	（株）一瀬調査設計
	自然科学分析	パリノ・サーヴェイ（株）
	木製品保存処理	（財）山梨文化財研究所
平成11年度	整備工事	（株）高野建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
	畑地灌漑水路移転工事	（有）岩間商興
	空撮	（株）一瀬調査設計
	木製品保存処理	（財）山梨文化財研究所
平成12年度	整備工事	（株）高野建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
	空撮	（株）一瀬調査設計
	自然科学分析	パリノ・サーヴェイ（株）
平成13年度	整備工事	（株）高野建設
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
	空撮	（株）一瀬調査設計
	地中レーダー探査	テラ・インフォメーション・エンジニアリング
	木製品保存処理	（財）山梨文化財研究所
平成14年度	整備工事	天川工業（株）
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
	空撮	（株）一瀬調査設計
平成15年度	整備工事	（株）雨宮工務店
	設計監理	（株）文化財保存計画協会
	水道管移設工事	（有）岩間商興
	空撮・測量	（株）一瀬調査設計
	木製品保存処理	（財）山梨文化財研究所
平成16年度	整備工事	塩山舗装（株）
	空撮	（株）一瀬調査設計
平成17年度	空撮	（株）一瀬調査設計
	遺跡情報処理（PDF化）	（株）一瀬調査設計
	出土木製品固化	（財）山梨文化財研究所
	木製品保存処理	（財）山梨文化財研究所
	概報印刷	（有）天野印刷所

第３章　環境整備の計画と施工（内郭部）

昭和５９年度にまとめられた『勝沼氏館跡基本設計』を以下第１・２節に引用する。

第１節　環境整備基本方針（第２０・２６図）

勝沼氏館は16世紀に勝沼氏の居館として、信友、信元の親子２代にわたって栄えた中世城館である。

環境整備にあたり、中世城館の特徴である縄張をはじめとする遺構を復元することを目標とし、地域の活きた歴史文化財として広く活用を図ることを理念とする。

復元のための環境整備は、以下の基本方針に基づくものとする。

（１）整備目標とする城郭期

調査結果から明らかなように、勝沼氏館には３期の時期変遷がみられる。

整備目標とする城郭期は、勝沼氏の館であり、単郭から拡張整備され、複郭式縄張が完成したと思われる第２期（館主は信友）以降とする。

ただし、第３期（館主は信元）は遺構の遺存状況が良好でなく、第２期Ａ（16世紀前期）を整備目標とする。

（２）整備範囲

整備は、史跡指定範囲内について実施することを基本とするが、城内として確認される内郭部から実施することとし、西北の郭、東の郭については、調査を急ぎ、まずその構造を明らかにする必要がある。

水上屋敷については勝沼氏館との関連を調査し、史跡環境を維持するための保全地区とする。

日川沿いの斜面については、館跡の崩壊を防ぐために、植栽等による斜面保護整備を行う。

なお、今後実施される調査の結果によって、適宜整備範囲の拡張等、見直しを検討する必要がある。

（３）遺構の保護

内郭部をはじめとして検出された、多くの建物礎石や水路跡等は貴重な資料であり、後世に正しく存続するために遺構は埋設保護を行う。

方法としては、遺構面に保存盛土を行い、遺構の移動、変形による破損を防止し、復元・表示施設を新たに上部に設置する。

（４）遺構の復元・表示

遺構の復元・表示を行う上で重要なことは、まず城郭としての空間（選地、縄張、普請）を理解させることと、郭の内部施設（作事）を理解させることである。

（ア）縄張（選地、普請）

内郭部は、二重の堀と土塁によって囲まれており、これがこの館の特徴ともなっている。

なお、虎口は郭の西北部と東南部に設けられ、それぞれに堀に架かる橋があったと想定されるが、現段階の調査では、橋の構造（引橋、土橋）が判然としない。

以上のことから、内郭部を取り囲む土塁、堀及び虎口の復元を目指すこととする。なお、橋は復元する必要があるので早急に調査を実施する。

（イ）内部施設（作事）

内郭部で検出された建物跡の礎石群について、現在その上部構造を正確に復元することは不可能である。

特に、中世城郭内の建物についての文献史料は乏しく、その構造等はほとんど知られていないのが現状である。

よって、検出状況が良好であり、規模が明確に想定されるものについてのみ、その表示を行う。

表示方法としては、遺構の上部に保存盛土を行い、新たに礎石を展示することとする。

また、水路跡、水溜跡、塀跡等検出された遺構及び小規模の土塁跡は、内郭部の空間構成を理解する上で重要なものであり、可能な限り復元展示することとする。

（5）案内・説明施設

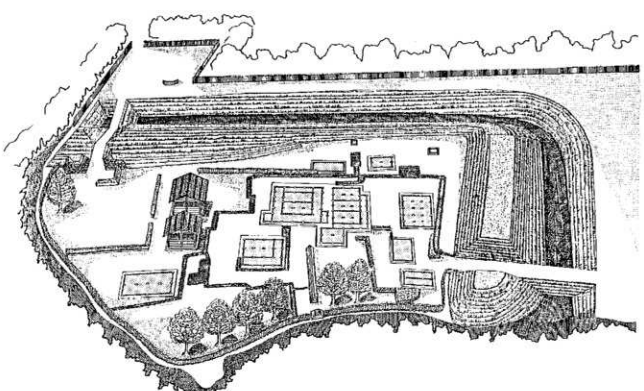
館跡及び各遺構の説明については、内郭周辺の虎口付近に１ヶ所総合案内板を設置し、館の歴史背景及びその全体説明を行う。

なお、各遺構には小規模な説明板を設置する。

（6）修景

修景に伴う植栽は、内郭南側の斜面保護及び安全監理のための防護植栽と、展示植栽に分類される。

展示植栽（庭木等）については、特に地域性を生かした樹種を選定する。



第２０図　勝沼氏館跡内郭部整備イメージ

第２節　内郭部環境整備基本計画

環境整備は、その事業範囲を発掘調査が完了している内郭部とし、その工期を３年と設定する。

整備を目標とする時期は、調査結果より、勝沼氏館を理解する最適時期と思われる第２期Ａ（16 世紀前期）とする。

なお将来的には、外郭域の調査を再開し、遺構の確認を得た段階で整備範囲の拡大等を検討する。

（1）復元整備の考え方（第２１図）

館跡を整備する上で最も重要なことは、中世館のイメージをいかに正確に伝えるか（学習機能）ということである。

城郭の構成要素として、基本的には次の４つがあり、それを理解させる整備が必要である。

・選地～館を構えた地理的要因

日川の急崖に面して地取りされ、要害の地にある。

・縄張～郭の配置、規模及び虎口の関係（甲州流築城）

館の３度の変遷により規模が拡大していった。

二重堀を持つという特徴がある。

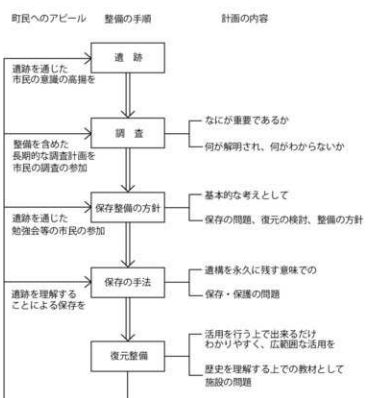
・普請～土塁及び堀の配置、規模

たたき土居、空堀である。

・作事～建物の種類、配置、規模

増、改築が行われた。主殿と思われる建物が存在した。

今回の事業範囲は内郭部であり、その範囲内において上記した復元意図を十分に理解させる整備を行う。



第２１図　整備の手順

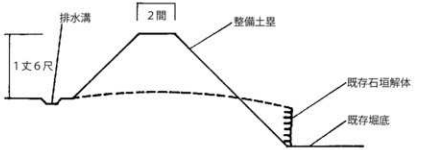
（2）土塁（第２２図）

築造当初は一定の高さをもっていた土塁も、現在はほとんど削平されている。

遺構の検出結果を基に、内郭の北部及び東部取り囲む土塁、西北の虎口に付随する土塁を復元整備する。

土塁規模は、現在確認できる高さ（１丈６尺）でたたき土居とし、版築盛土技法によって復元する。

土塁の土羽部分は野芝張りとし、防災処置を行う。



第２２図　土塁の整備

（3）堀

堀は、現在箱堀であったことが確認されているが、堀底の詳細については不明である。

堀は、既存の地形を利用した形状とし、芝張の堀肩とする。

ただし、後年新たに設けられたと思われる石積みは解体し、当時の仕上げ（たたき）とする。

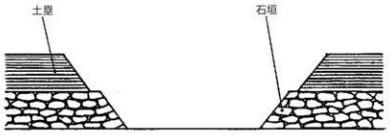
（4）虎口（第２３図）

内郭の虎口は、現在西北部と東南部に２ヶ所確認されているが、その構造を知ることは不可能である。

虎口の整備として、土塁を断ち切った形態を復元することとし、出入口としての活用を図る。

西北の虎口については特に、検出結果から、約 1.5m の石垣が付され、その上部に土盛が行われていたと推察される。

また、虎口の桝形を形成したと思われる蔀土居、虎口に取りつく土橋等は調査により、正確に復元する必要がある。



第２３図　虎口の整備

（5）建物跡（第２４図）

発掘調査により内郭部で確認されている建物跡は十数棟に及んでおり、特に、礎石を伴う大型建物は特徴的である。

建物の構造は、その城郭期及び地域性から、上部構造を復元することはほとんど不可能である。

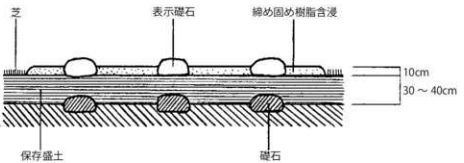
しかし、検出状況から、庇を伴った主殿や常御座所と思われる大規模建物跡、厩、番所、蔵等の中規模建物跡は、推定可能である。

建物展示は、これらの建物跡に加え、館内の生活を知る上で特徴的な、接見・接客等に使われたと思われ

る会所跡、炉を伴った工房跡、水溜と関連する水屋、脇所等とする。

表示方法は、遺構礎石の上に保存盛土を行い、その上に新たに礎石を配置することとする。

なお、遺構展示面は、周囲と縁切りするために小段を設け、たたき（樹脂含浸）仕上とする。



第２４図　遺構の保護と建物表示

（6）水路

館跡の特徴ある遺構として、内郭部を縦横に走る水路があげられ、水が館内の生活に深く関わっていたことが推察される。

流路は東側土塁口より流入し、北進、西進、南進し、日川の斜面に流れ落ちていたと想定される。

調査結果より、水路、水溜は良好な状態で検出され、ほぼ全域にわたり復元可能である。

展示方法は、建物跡と同様とし、保護盛土を行った上で新たに遺構を配置することとする。

また、水溜遺構と類似している地下蔵、雪隠、荒神も同様の展示方法を用いることとする。

（7）その他の遺構（第２５図）

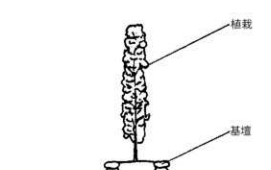
その他の遺構として、内郭部を区画するための塀、土塁、基壇状の石垣等があげられる。

塀について、その上部構造を推測することは、ほとんど不可能であるが、当時の作事方法として、基壇（石積）を行ってその上に塀の構造物を設けたものと思われ、西北部虎口、東南部虎口を取り囲むように配置されている。

特に西北部虎口を取り囲む塀は、中門らしき柱跡が検出され、内部が兵溜りに利用されていたことが想定される。

また、内郭中央に設けられた土塁についても区画するための施設と考えられる。

土塁はすべて復元することとし、塀は基壇のみ復元し、植栽により表示する。



第２５図　塀の整備

（8）案内・説明板施設

館跡の総合的な説明を行うための案内板及び各遺構を表示する説明板の設置を行う。

案内板の位置は、整備完了後主要な出入口となる西北の虎口付近とする。

内容は、館の変遷、遺構の総合的な説明、周辺関連遺跡との関係等とする。

なお、模型による復元展示も検討する。

（9）修景

修景に伴う植栽、植樹については、内郭南側の斜面を保全するために、既存樹林の育成及び新規の植樹が不可欠であり、長期的な展望に立った管理が必要である。

郭内の修景に伴う植栽は、広場及び庭園に利用される個所に、地域特有かつ古くから生活と密接している植樹を行い、屋外学習の場として利用されるように配慮する。

なお、防災安全施設としての柵についても、植栽を利用した四ツ目垣とする。

（１０）その他の施設整備

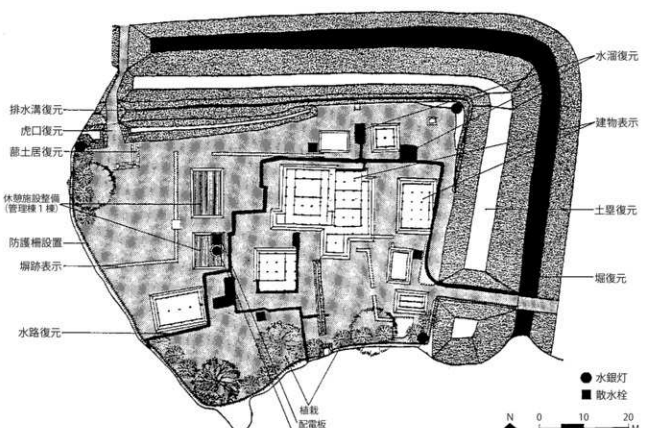
本計画は、この地方の特色ある歴史学習の場として、多くの人々に利用されることが予想され、それに伴う施設として、駐車場の設置、遺構・遺物を展示するための屋内施設等が今後必要となる。

将来的には、用地の確保、施設の転用等を検討するための調査・計画を立案することが課題である。

（１１）維持・管理

館跡の維持・管理の施設として、管理棟を整備する。

なお、照明用の水銀灯は両虎口及び北東端の土塁脇に、芝生散水用の散水栓は水路脇に設置する。



第２６図　内郭部整備計画図

第３節　遺構埋設保存（第１１図）

遺構埋設保存は、土塁とそれを含む内側の調査範囲に対して実施された。保存整備の計画段階では、一部露出展示も計画されたが、遺構保存の観点から全面埋設保存を行うこととした。遺構の高低差および保存状態により、耐水構造を有する版築法を取り入れた。現況遺構面に対しては30～40ｃｍ厚の盛土を版築し、土塁部分は盛土の後、土羽打、整形を行った。

盛土の版築は、１．砂敷きならし（遮断層）、２．粘性土を人力で埋め戻し、３．重機（ローラー車）による転圧、４．石灰散布、５．砂敷きならし（遮断層）という工程を２回重ねて行い、30～40ｃｍの保護層を内郭部遺構面全面に対して設けた。

昭和５８・５９年度の整備事業として行われ、内郭部の東半分を５８年度、西半分を５９年度に施工し、追加工事として内郭西端境界輪郭に沿って盛土による小規模な土塁を設けている。

人力による埋め戻し

ローラーによる転圧

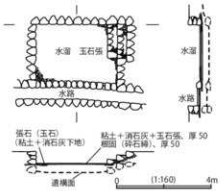
第４節　遺構表示

内郭部の整備は第２Ａ・Ｂ期の遺構群を対象として復元表示している。（第１２～１５図）

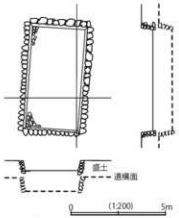
（１）水路・水溜（第２７図）

郭外から給水を受けて郭内へ水を供給する石積水路と水溜遺構が復元された。水路遺構は、ＳＤ０１・０２・０３・０５・０６・１３・１４・１６・１８・２７・２８、ＳＸ１９、水溜遺構はＳＰ０１・０２・０３・０４・０５、ＳＸ５２が復元された。

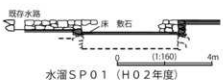
水路は、復元位置の整地締固め、砕石敷均しによる根固めを行い石積とした。石材は玉石を用い、30cm大のものを用いた。石積みの裏込め材は粘性土と砕石の尺状の締固めによるものとし、粘性土には消石灰を散布した。水路床は粘土と玉砂利及び消石灰によるタタキとした。水溜も水路復元工と同様に行ったが、床は床仕上げの上に玉石敷とした。玉石材は円形の平たい石を一面に敷並べた。



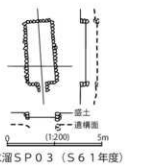
水溜ＳＰ０２（Ｓ６０年度）



水溜ＳＰ０４（Ｓ６１年度）



水溜ＳＰ０１（Ｈ０２年度）



水溜ＳＰ０３（Ｓ６１年度）

内郭部主要幹線水路断面（Ｓ６０年度）

第２７図　水路・水溜

水溜完成状況

水溜完成状況

水路石積状況

水路完成状況

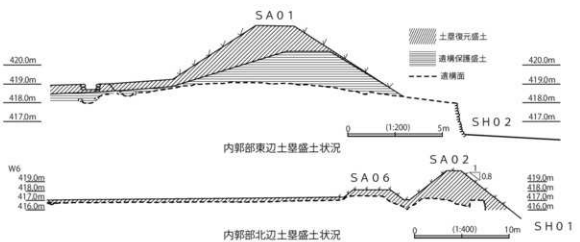
（2）土塁・堀（第２８～３１図）

土塁については、東辺内土塁ＳＡ０１、北辺内土塁ＳＡ０２、北門脇土塁ＳＡ０６、郭内土塁ＳＸ１７の復元を行った。

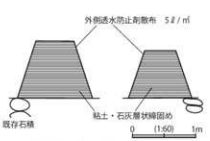
東辺内土塁ＳＡ０１は発掘調査時にはすでに削平されていたため、盛土状況は不明であったが、基底部幅14.5mを測る。盛土による復元は真砂土と消石灰による締め固めとし、法面には芝を張った。土塁の高さは郭内の地表面から概ね3mの高さに統一し、天端幅2m、外側法面の傾斜角度は∠33～35°とした。

北辺内土塁ＳＡ０２も削平を受けて盛土状況は不明であるが、基底部幅は8.5mほどである。郭内地表面からの高さ2.5m、天端幅1.5m、外側法面の傾斜角度は∠40°程度とした。

郭内土塁ＳＸ１７は、内郭部のＡテラスとＢ２テラスを画す土塁で、基底部には高さ0.4～0.5mの石積が設けられている。基底部幅は3.7mを測る。復元は粘土と石灰を用いて層状に締固め、基底部幅1.2m、



第２８図　土塁



内郭部内土塁（築地）整備仕様

築地の復元

北辺内土塁

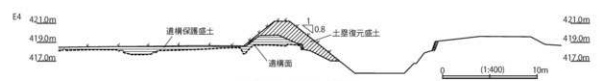
東辺内土塁

高さ 0.9m、天端幅 0.6m、法面傾斜角度は∠ 70°程度とした。

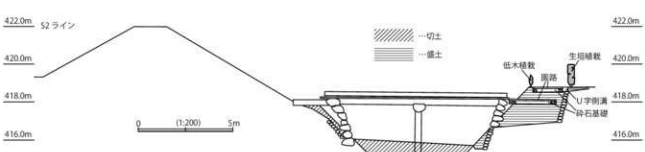
堀については、北辺内堀ＳＨ０１、東辺内堀ＳＨ０２の復元を行った。調査所見では、ＳＨ０１は幅 10.5m、深さ 2m ほどの窪地となっており、昭和６３年の北辺土塁整備に伴う発掘調査で 1m ほど掘削したが、堀底は検出できなかったことがわかっている。

ＳＨ０２は、幅 15m、深さ 2.5m ほどの窪地となっており、東門の存在が想定される内堀南端部に東西 11.5m、南北 9m の範囲のトレンチを設定し調査したところ、2.5m ほど掘り下げたところで多量の崩落石に阻まれたため掘削を断念した。このため、正確な堀底のレベルは判明していないが、ボウリングステッキを用いたところ、トレンチ最深部よりさらに 1m 下あたりが堀底となることが推定されている。また、トレンチ内から①多量に検出された花崗岩は内堀内郭側法面に 1.7m の高さで雑然と積み上げられている状況が確認され、橋台石積と考えられること。②内堀の東側、外堀との間には中間土塁ＳＡ０４があるが、その中間土塁に上部幅 7m、深さ 1.8m、底部幅 2.5m の切り通し通路の存在。③内堀と東側切通し通路の接点にあたる部分に 4 基のピットを検出。これら①～③から切通しから内郭部に向けて、この地点に木橋が架かっていたことが推定されたため、内堀の復元と共に木橋も同地点に復元した。

内堀は幅 10m ～ 15m、底部幅 4m ～ 5m とし、内堀覆土に達しない事を考慮して、深さは 3 ～ 3.5m として切土を行い、崩落等により法面が失われていた部分には盛土を行った。法面傾斜角度は、北辺内堀ＳＨ０１は内側・外側とも∠ 40°前後、東辺内堀ＳＨ０２は内側が∠ 45°前後、外側が∠ 50°前後となっている。



内郭部北辺土塁と内堀整備

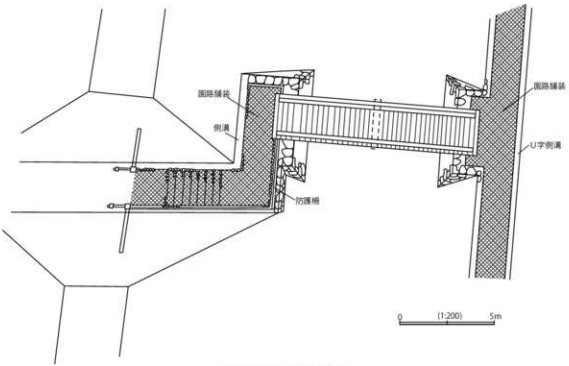


内郭部東辺内堀整備と架橋状況

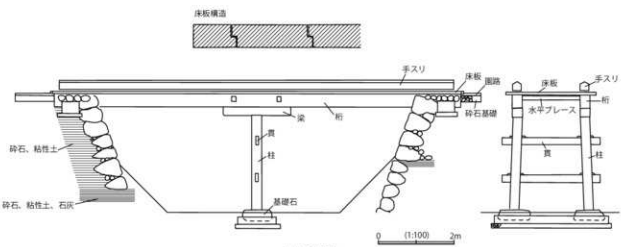
第２９図　内堀

北辺内土塁と内堀

東辺内土塁と内堀



内郭部東門と木橋整備状況

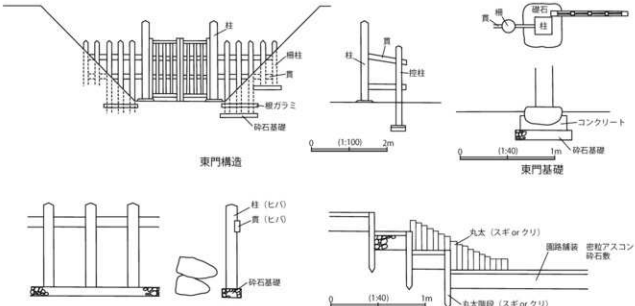


木橋の構造

第３０図　東門木橋

東門木橋整備

木橋床板留め



第３１図　東門

東門周辺

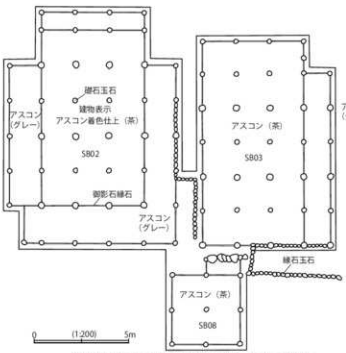
（３）建物遺構（第３２図）

建物遺構はＳＢ０２・０３・０５・０６・０８・１２・１４・１９・２０の復元を行った。

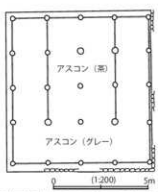
礎石建物であるＳＢ０２・０３・０５・０８・１２・１４・２０については、現地盤の安定を図るためクラッシャーラン厚 20mm を敷き、その上に粗粒度アスコン厚 50mm で建物表示の仕上げを施した。アスコンの着色については、建物の屋内は茶色、屋外は灰色を用いて表現することとした。礎石用の玉石緑石石材は川原石の玉石とし、280 ～ 350mm までの平らな石材を使用した。建物跡の輪郭を示す界石はコンクリート縁石 120 × 120 × 600 を使用した。礎石用玉石や界石用縁石は砕石基礎の上にコンクリートまたはモルタルを用いて固定している。

ＳＢ１９については、発掘調査時に土間状の硬化面と礎石と考えられる平石が散見されていることが確認されており、礎石建ち土間構造の建物であったことが推定されたが、構造の詳細は不明であるため、礎石は用いずに範囲のみをアスコンで表示した。

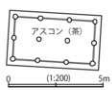
ＳＢ０６については、東屋として立体復元したので、別項（第７節　東屋）の項で述べる。



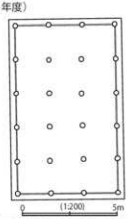
礎石建物表示ＳＢ０２・０３・０８（Ｓ６２年度）



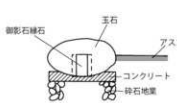
礎石建物ＳＢ１２（Ｓ６２年度）

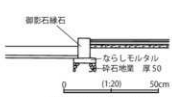


礎石建物ＳＢ１４（Ｓ６２年度）

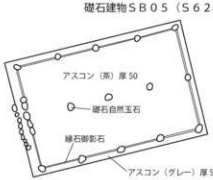


礎石建物ＳＢ０５（Ｓ６２年度）





建物表示基礎等仕様



礎石建物ＳＢ２０（Ｓ６３年度）

礎石建物ＳＢ１９（Ｓ６３年度）

第３２図　建物表示

建物の復元表示

建物復元表示（ＳＢ０２・０３・０８）

建物復元表示（ＳＢ０４）

建物復元表示（ＳＢ１２）

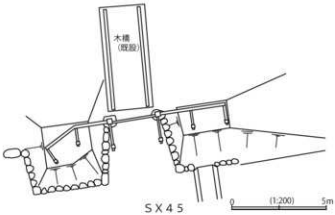
建物復元表示（ＳＢ２０）

建物復元表示（ＳＢ１９）

（4）その他

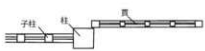
敷石遺構ＳＺ１５は、粘板岩川原小石を敷き詰めて敷石としたもので、通路遺構として考えられる。復元には 100mm 内外の粘板岩を採取して敷き詰め、50mm ほど敷き均した上に十分タタキ締めを行って密な張石とし、詰石や粘土で必要に応じて補強を行った。

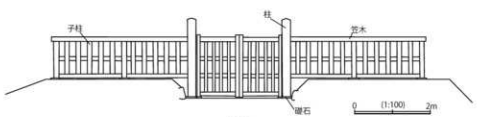
北門ＳＸ４５は、内郭北西端に位置する門遺構で、門柱を据えたと考えられる礎石を有し、そこから南に八の字状に石積が伸び、それぞれの石積が東西に鉤の手状に折れ曲がっている。復元は径 20 ～ 35cm 程度の花崗岩を１～３段に積み、裏込めには砕石による基礎の上に粘性土を盛り、消石灰を散布して締固めた。



ＳＸ４５

北門ＳＸ４５





北門

第３３図　北門

北門木橋

北門脇土塁ＳＡ０６の復元

北門脇土塁ＳＡ０６は北門ＳＸ４５の石積みに対応し、北辺土塁脇側溝であるＳＤ１０の内側で発見された高まりで、大半は削平を受けて盛土状態は不明であるが、東に向かって幅が狭くなり、それにつれて高さを失っている。復元は、西側が高く東側が低くなることを意図し、高さ 1.0m ～ 1.8m、天端幅最大 1m、基底部幅最大 5m、法面傾斜角度は∠ 40°程度とした。また、石積ＳＸ４８はＳＡ０６に関連する石積で、南側に想定される通路から土塁上に登る通路のコーナー部分として考えられたため、ＳＡ０６の一部に加えて

復元した。（第３３図）

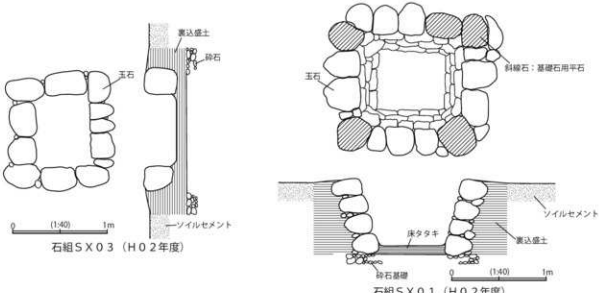
広庭ＳＣ０１は北門ＳＸ４５の南側に広がる無遺構硬化面地点で、南側を水路ＳＸ５２に、東側を石列ＳＸ７１によって画された東西 21m、南北 20m の空間となっており、この復元は三和土叩き仕上げとした。また、ＳＸ４５東側石積から広場側（南側）に突き出るように検出された粘質土塊を築地塀状遮蔽施設の痕跡とみて、低木植栽により復元している。

広庭ＳＣ０１

広庭ＳＣ０１

水路ＳＸ５２は広庭ＳＣ０１の南側を画する施設で石積と水路から構成され、その 1.8m 南側に位置する石列ＳＸ５３との間に通路を形成している。また、石列ＳＸ７１は広庭ＳＣ０１の東側を画する南北石列で、どちらもＳＣ０１の範囲を画する配置となっている。これらの遺構の復元は、花崗岩の石積みと粘性土＋消石灰の締固めによる裏込めを用いて復元しており、広場側には低木植栽を施して視覚的に分かりやすく広場範囲を示した。

石組ＳＸ０１は上部径 1.2m、深さ 0.9m、底部径 0.8m の擂鉢状に組まれた石組遺構で、性格は判然としないものの雪隠として復元した。復元には砕石基礎の上に径 30 ～ 40cm の玉石を４段に組み、粘土＋砕石＋消石灰を混ぜたものを層状に締固めた。石組ＳＸ０３は内法 0.8m、深さ 0.2m を測る石囲炉状の石組施設であり、焼土等の被熱痕跡が無いことや南西隅に高さ 0.4m の立石が伴うことから釜戸神などの祭祀関連遺構と考えられる。復元方法はＳＸ０１と同様に行った。（第３４図）

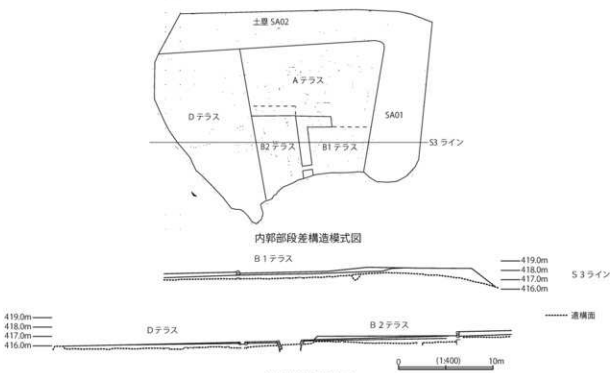


第３４図　石組遺構の復元

焼土ＳＳ０２・０３とした焼土範囲は、水溜ＳＰ０１の西側に東西 6m、南北 4.5m ほどの範囲をもって広がることが確認されており、台所と推定してその範囲を舗装で示した。

第５節　地形復元（第３５図）

郭内は北東から南西方向にかけて降る傾斜をもつ地形であり、テラスが段差構造をもって存在していた。その内郭部第２Ａ・Ｂ期のＡテラス・Ｂ２テラス・Ｄテラスに段差構造をもたせて復元するために、真砂土と消石灰による締め固めによる盛土造成を行った。なお、Ａテラスは内郭部東半域、Ｂ２テラスは郭内土塁ＳＸ１７の西側にあたり、ＤテラスはＢ２テラスの西側にあたる。



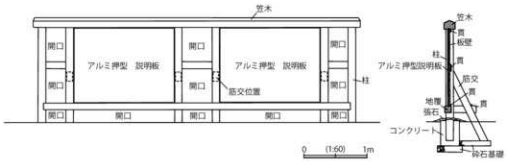
第３５図　段差構造の復元

第６節　説明板設置（第１５・３６図）

勝沼氏館跡と時代背景などを説明した遺跡案内板３、内郭部の遺跡としての特徴を説明した遺跡説明板１、遺跡名称板２、遺構名称板２６を設置した。

遺跡名称板

遺跡説明板

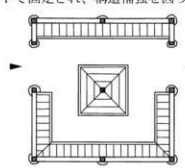


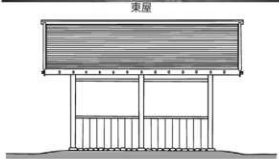
第３６図　遺跡説明板設計図

第７節　東屋設置（第１４・３７図）

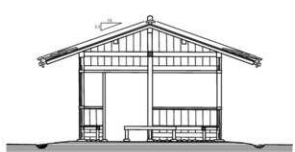
見学者の休憩・雨避けの便と建物ＳＢ０６の立体表示を兼ねて、東屋を設置した。ＳＢ０６は方２間の小型礎石を用いる礎石建物で東西 3.64m 南北 3.64m、柱間間隔 1.82m を測る。東屋はＳＢ０６を被覆した保護盛土上面に建築した。砕石基礎の上にコンクリート基礎を設置し、礎石、束石の上に木製の柱材・屋根材を組んで築いた。コンクリート基礎、礎石、柱材は１本のボルトで固定され、構造補強を図った。

東屋

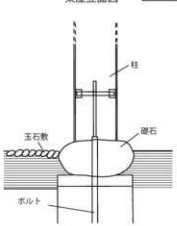




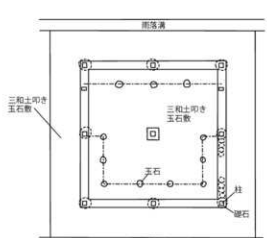
東屋立面図



東屋平断面図



東屋基礎構造図



東屋柱配置図

第３７図　東屋（ＳＢ０６）

第８節　電気・給水（第１４図）

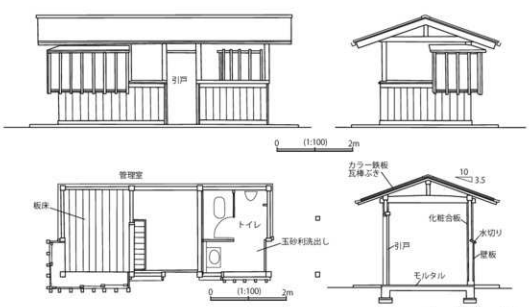
内郭部の管理に供するため、郭内に給水施設および電気施設を埋設した。給水施設は手洗い用の水道が１、管理用散水栓が４で、内郭部北門外の入口広場に止水栓が設置されている。電気施設は内郭部内に整備した東屋にコンセントを接続した。また、平成４年にトイレ・管理棟設置にあたり、棟内にも手洗い用の給水設備、照明用の電気供給配線を施した。

電気設備工事

水道管敷設工事

第９節　トイレ・管理棟（第１５・３８図）

北門外の入口広場の整備に伴い、トイレ・管理棟を設置した。



第３８図　トイレ・管理棟設計図

トイレ・管理棟

トイレ・管理棟

第１０節　導入路（第３図）

内郭部の見学導線は２つあり、県道３４号線側から北門に入るルートと、県立ワインセンター側から東門に入るルートがある。また、両者は内堀と外土塁の間に設けた犬走り状の通路によって接続している。郭内は、水路等のように溝状の遺構が立体復元されているため、要所に木橋を設けて見学の便宜を図った。

内郭部を西から臨む（手前の道が県道３４号線、奥に見える施設が県立ワインセンター）

第４章　環境整備の計画と施工（外郭域）

外郭域の保存整備事業はこれまでに平成８年度～平成１７年度にかけて、東郭一帯の整備を行ってきた。以下にその内容を述べる。

第１節　外郭域環境整備基本計画

（1）事業の目的

外郭域環境整備事業は、公有化による史跡指定地の保護と、発掘調査による勝沼氏館跡外郭域の変遷と構造、性格の解明を図り、これに基づいた史跡整備により遺跡博物館・歴史学習施設としての活用から、文化財保護意識の高揚をめざすことを目的とする。

（2）事業範囲

当面する外郭域環境整備事業予定範囲は、県道塩山市川大門線以東、外郭東門道以西とする。

（3）事業計画

事業は、内郭部環境整備事業を進めている間に、現状変更計画により公有化を図った外郭東門の北半域を起点として、計画的な公有化を進めながら実施する。

（4）発掘調査の目的

整備にあたっては、必ず発掘調査を実施し、以下の事項の解明につとめ、調査成果を順次まとめ報告書を刊行し、整備方針をきめていく。

a. 外郭域の北辺と東辺の防備構造の解明と領域の把握
b. 内郭部の時期変遷と外郭構造の変化の対応関係の解明
c. 東郭の郭内部施設を明らかにし、郭の性格を解明する
d. 外郭東門の構造を解明する
e. 外郭の近接した地域の利用状況を解明し、家臣屋敷群の発見と性格の解明を行う

（5）整備方法

整備方法は、内郭部の方法に従い行うものとし、整備の対象とする遺構の時期は、内郭部の第２Ａ期と対応する時期とし、順次発掘報告書と共に整備報告書を刊行していく。

外郭整備地区は、住宅や畑を隣接する場合が多く、整備に当たっては、調整等を十分おこなって実施するようにする。

（6）整備後の公開・管理

整備が完了した地区は順次公開し、内郭部とともに日常管理体制の強化を図っていく。

第２節　遺構埋設保存

遺構保護層は粘性土に石灰を混ぜたものを用い、仕上厚平均30cmとし、タンパー、振動ローラー等により５回以上の転圧を加えて締め固めた。

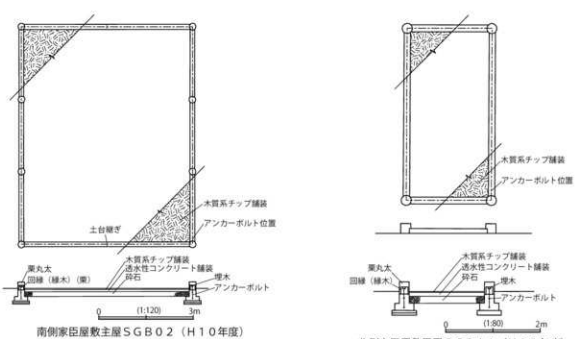
第３節　遺構表示

（1）建物遺構（第１６・１８・１９・３９・４０図）

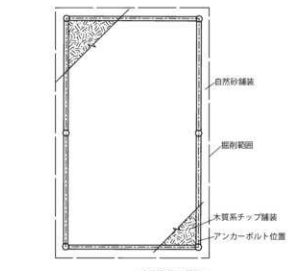
外郭域東郭の建物遺構はいずれも掘立柱建物であり、礎石建物を基本としていた内郭部とは建物の構造に違いがあった。外郭域発掘調査の結果から２Ａ期とした建物遺構を中心に復元することとしたが、一部２Ｂ期のものも含まれる。

北側家臣屋敷主屋としたＳＧＢ０８を休憩施設を兼ねた東屋として復元を行った他は、いずれも建物の範囲と柱配置を示す平面表示とした。平面表示で復元した建物遺構はＳＧＢ０８を除くと、北側家臣屋敷馬屋ＳＧＢ１１、南側家臣屋敷主屋ＳＧＢ０２、職人居住棟ＳＧＢ４３（２Ａ期）、ＳＧＢ３２（２Ｂ期）、木製品荒加工工房ＳＧＢ３４（２Ａ期）、ＳＧＢ３３（２Ｂ期）、金属加工工房ＳＧＢ３８（２Ａ期）、ＳＧＢ４７（２Ｂ期）、木製品仕上げ工房ＳＧＢ５０、５１である。

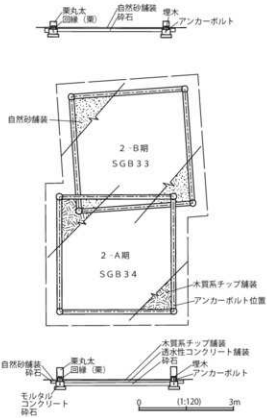
建物範囲は砕石基礎の上に舗装を施して示し、柱配置はコンクリート基礎の上に栗丸太を柱状に露出させることで示した。柱と柱の間は縁木で連結し、２Ａ期建物内は木質系チップ舗装、建物外は自然砂舗装として建物内外を区別した。２Ｂ期とした建物は建物内を自然砂舗装としたほか、２Ａ期建物と比べて柱の高さを短めに設定してある。



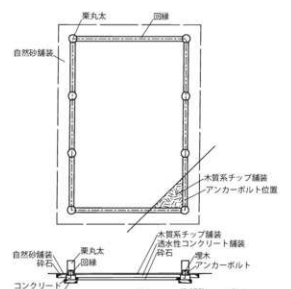
第３９図　建物表示①



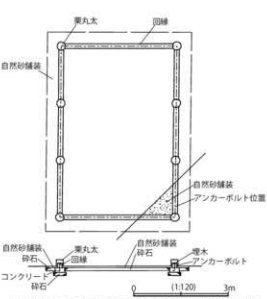
職人居住棟ＳＧＢ４３（２Ａ期）（Ｈ１４年度）



木製品荒加工工房ＳＧＢ３４・３３（Ｈ１４年度）



木製品仕上げ工房ＳＧＢ５０（２Ａ期）（Ｈ１６年度）



木製品仕上げ工房ＳＧＢ５１（２Ｂ期）（Ｈ１６年度）

第４０図　建物表示②

南側家臣屋敷（ＳＧＢ１０）の復元表示

馬屋（ＳＧＢ１１）の復元表示

木製品荒加工工房（ＳＧＢ３４）の復元表示

木製品荒加工工房（ＳＧＢ３３）の復元表示

職人居住棟（ＳＧＢ４３）の復元表示

職人居住棟（ＳＧＢ３２）の復元表示

金属加工工房ＳＧＢ３８

金属加工工房ＳＧＢ４７

（2）水路（第１６～１９図）

水路として機能していた溝遺構は、地下の遺構に影響を与えないよう盛土して立体的に表示を行った。遺構は同位置復元としたが、溝の深さは実際よりも浅く表示し、表面および法面には芝を張った。復元した遺構は幹線水路ＳＧＤ０５、北側家臣屋敷排水路ＳＧＤ１２、堀（受水槽）ＳＧＰ０２、出水路ＳＧＤ３３、飲料水供給水路ＳＧＤ３４、排泥処理溝ＳＧＤ４２である。なお、これらのうちＳＧＰ０２、ＳＧＤ３４は、現在も使用されている堰から引水して水を流し、景観復元を演出している。

幹線水路ＳＧＤ０５

北側家臣屋敷排水路ＳＧＤ１２

堀（受水槽）ＳＧＰ０２

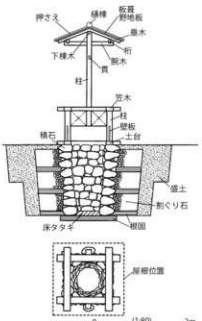
飲料水供給水路ＳＧＤ３４（左）と排泥処理溝ＳＧＤ４２

（3）井戸（第１６・１８・１９・４１図）

復元した井戸遺構は、南側家臣屋敷井戸ＳＧＥ０２、素掘り井戸（２Ｂ期）ＳＧＥ０３、素掘り井戸ＳＧＫ１５３である。ＳＧＥ０２は立体的に復元し、ＳＧＥ０３は盛土上面からわずかに掘り窪め、ＳＧＫ１５３は１Ｂ期外郭外堀ＳＧＤ５３舗装表示中に張芝を施して位置のみ表示した。また、保存状態が良好であった１Ａ期の石積井戸ＳＧＥ０６を希望により見学できるように、盛土表面からコンクリート枠を設置し、鉄板の蓋で被覆した。

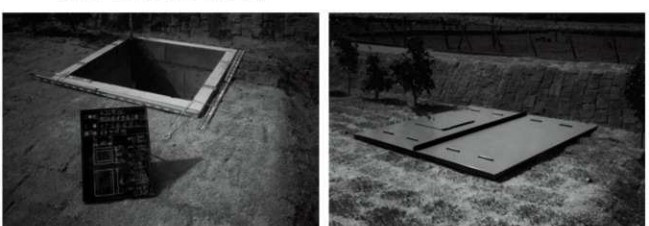
立体表示としたＳＧＥ０２は、盛土中に径300mm程度の石を用いた石積みを行い、その上部には転落防

止のための木製の井戸枠と屋根を設置した。



第４１図　ＳＧＥ０２の復元（Ｈ１０年度）

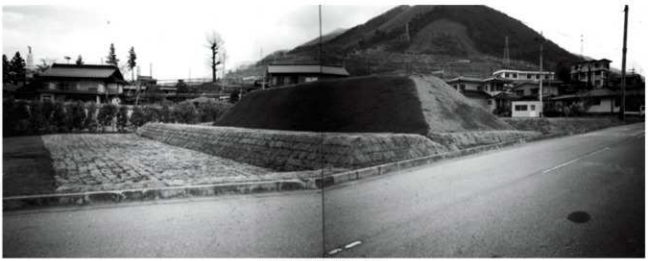
南側家臣屋敷井戸ＳＧＥ０２の復元表示



１Ａ期の井戸ＳＧＥ０６被覆状況

（4）土塁・堀（第１６・１７・１９・４２図）

土塁ＳＧＡ０１は南北土塁で２Ａ期以降外郭東郭の東辺を画する土塁であったと考えられている。その外側には土塁に沿って堀ＳＧＤ１６、内側には土塁脇側溝ＳＧＤ１７、北側には同じく側溝ＳＧＤ２２が構築されており、これら盛土上に復元し、表面および法面には張芝を行った。また、第２期段階で東郭の拡大整備が行われたことを明示するため、第１期遺構である１Ｂ期外郭外堀ＳＧＤ５３、１Ａ期外郭外堀・１Ｂ期内堀ＳＧＤ６７、１Ｂ期外郭外土塁ＳＧＡ０３を、堀は舗装、土塁は張芝によって表示した。なお、ＳＧＤ５３は２期遺構井戸ＳＧＫ１５３によって切られているため、堀舗装表示中に張芝によってその位置を示した。



土塁ＳＧＡ０１の復元表示

堀ＳＧＤ１６

１Ｂ期外郭内堀ＳＧＤ６７平面表示

１Ｂ期外郭外堀ＳＧＤ５３平面表示

（５）その他（第１６・１８図）

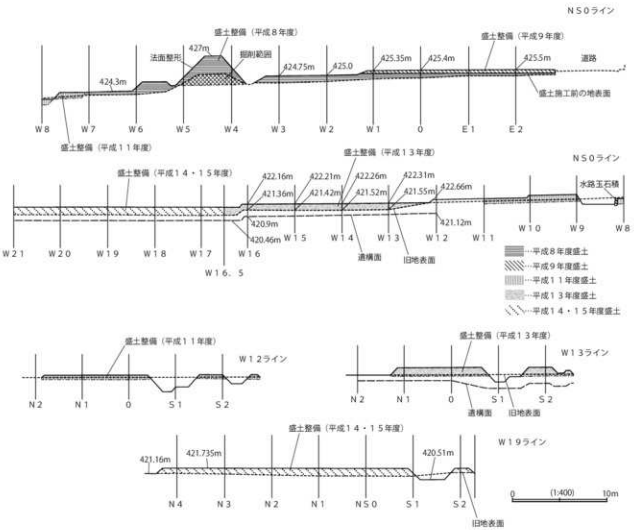
廃棄土坑ＳＧＫ１４８、ＳＧＫ１８３を浅く掘りくぼめて表示した。いずれも近接する工房跡に関連した廃棄土坑と考えられたため復元対象としたものである。

他に南側家臣屋敷の西側を画する石積ＳＧＸ０１を表示した。直径 30 ～ 40cm の玉石を２段に積み、長さ 5.4m ほどの規模で設置した。

また、遺構として検出されていないが、南北の家臣屋敷の領域を表示するため、生垣により屋敷割りを表現した。

第４節　地形復元（第４２図）

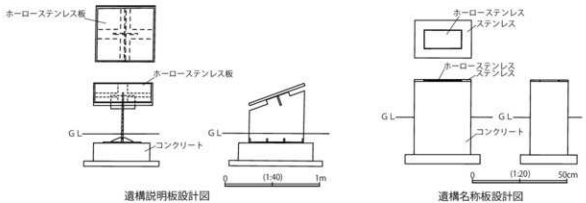
外郭域東郭は、東から西に下る傾斜地形で、調査前にはＧ地区７段（Ｇ１～Ｇ７テラス）、Ｆ地区１段（Ｆ１テラス）、計８段の雛壇状地形となっていた。発掘調査の結果、Ｇ２テラスを除いて近世から近代の水田層面の段差を引き継いだものであることが確認された。近世に水田化されるに際し、館終末期の施設や空間区分などが影響を与えたであろうことを考慮し、雛壇状のテラス構造を再現することとした。



第４２図　外郭域東郭整備地点における地形復元横断面図

第５節　説明板設置（第４３図）

復元した各遺構に遺構名称板27基、中でも東郭を説明する上で重要と考えられた南北家臣屋敷、飲料水供給水路、受水槽改修石積にそれぞれ遺構説明板を計３基設置して来訪者の便宜を図った。なお、建物遺構で２Ａ・２Ｂ両期表示されているものについては、プレートの色を２Ａ期は白色、２Ｂ期は黄色と区別している。



第４３図　遺構説明板・遺構名称板

遺構説明板

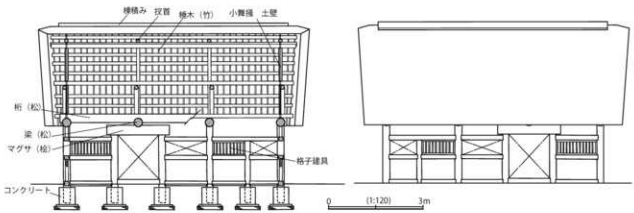
遺構名称板

第６節　東屋設置（第４４図）

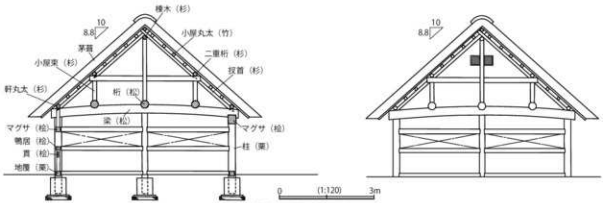
見学者の休憩施設として、外郭域Ｇ地区２Ａ期の北側家臣屋敷主屋ＳＧＢ０８を東屋として立体表示した。砕石基礎上にコンクリート基礎を土台として柱を据え、茅葺屋根、土壁構造とした。壁は総壁ではなく一部に壁を付けない構造とした。

東屋（北側家臣屋敷ＳＧＢ０８）

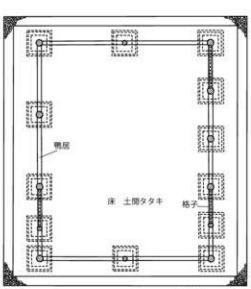
整備後の東屋



東屋立面図・断面図１



東屋立面図・断面図２

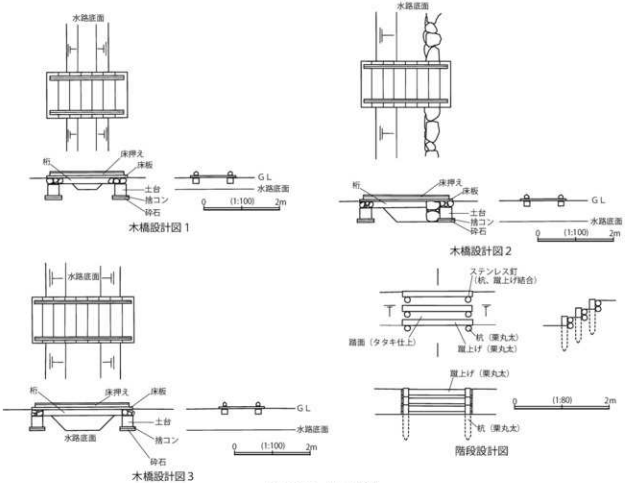


東屋床面構造図

第４４図　東屋（ＳＧＢ０８）

第７節　導入路（第１６・４５図）

幹線水路、北側家臣屋敷排水路、土塁脇側溝、出水路、飲料水供給水路上に木橋を、テラスの段差が著しい個所には階段を設け見学の便宜を図った。



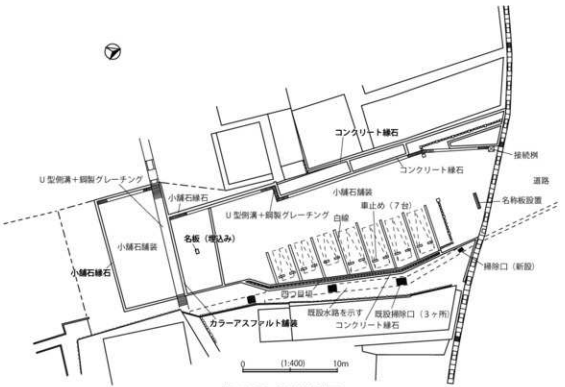
第４５図　木橋・階段

木橋整備状況

階段整備状況

第８節　駐車場（第３・４６図）

見学者の便益を図り、見学のための進入路とするため、勝沼町（現・甲州市）の町単独事業として平成９年度にＨ８Ｆ地区に駐車場を設置した。



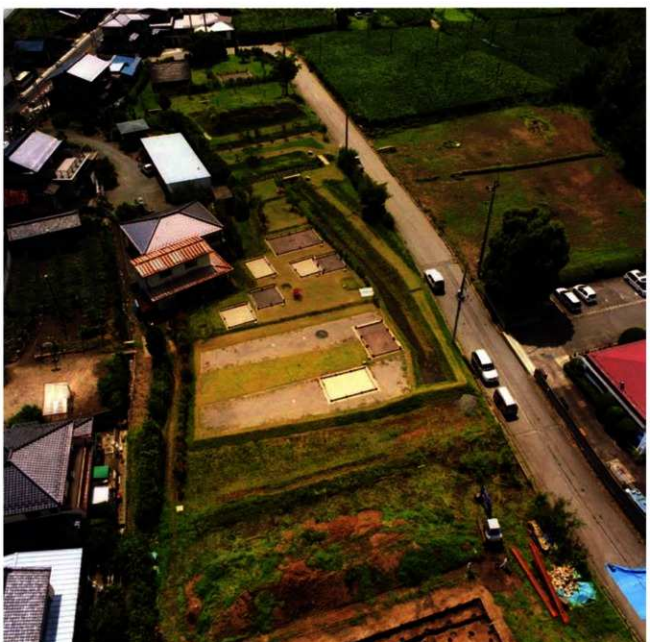
第４６図　駐車場設計図

駐車場完成状況

勝沼氏館跡の立地環境（西から）

内郭部整備状況　北西から（平成元年）

内郭部整備状況（平成４年）



外郭域東郭整備状況　西から（平成１６年）

昭和５８年度整備 内郭部　埋め戻し・盛土

１層目埋め戻し

１層目転圧

１層目石灰散布

遮断層砂敷きならし

２層目埋め戻し

２層目転圧

２層目石灰散布

２層目石灰散布

写真図版６

昭和５８年度整備 内郭部　埋め戻し・盛土

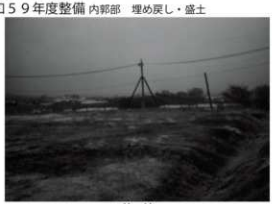
遮断層砂敷きならし

転圧

東辺土塁着工前

土塁法面整形

昭和５９年度整備 内郭部　埋め戻し・盛土



着工前

１層目砂敷きならし

粘性土敷きならし

粘性土締固め

昭和５９年度整備 内郭部　埋め戻し・盛土

石灰散布

２層目砂敷きならし

２層目砂締固め

昭和６０年度整備 内郭部　水路復元

水路床掘り

水路転圧

水路砕石敷きならし

水路砕石転圧

写真図版８

昭和６０年度整備 内郭部　水路復元

水路石積状況 01

水路石積状況 02

水路石積状況 03

水路石積状況 04

水路石積状況 05

水路石積状況 06

水路裏込土羽打ち

水路完成 01

昭和６０年度整備 内郭部　水路・水溜復元

水路完成 02

水溜砕石転圧

水溜石積状況 01

水溜石積状況 02

水溜石積状況 03

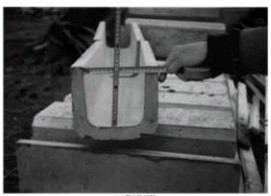
水溜石積状況 04

水溜完成

昭和６０年度整備 内郭部　排水施設

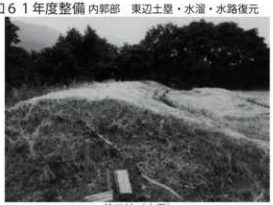
排水工砕石転圧

排水工Ｕ型側溝敷設


Ｕ型側溝

集水桝

昭和６１年度整備 内郭部　東辺土塁・水溜・水路復元


着工前（土塁）

完成（土塁）

着工前（水路）

完成（水路）

昭和６１年度整備 内郭部　東辺土塁・水溜・水路復元

着工前（水溜）

完成（水溜）

水溜床掘り

水溜砕石敷きならし

水溜石積状況

水溜玉石敷き

水溜完成状況

水路砕石転圧

昭和６１年度整備 内郭部　東辺土塁・水溜・水路復元

水路石積状況

水路石積裏込

水路床締固め

水路床仕上げ

水路完成

敷地内盛土搬入

敷地内盛土石灰散布

敷地内盛土転圧

昭和６１年度整備 内郭部　東辺土塁・水溜・水路復元

土塁工　丁張

土塁工　石灰散布

土塁工　締固め

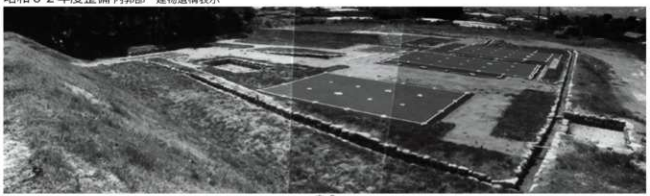
土塁工　芝張り

土塁完成

昭和６２年度整備 内郭部　建物遺構復元

着工前

昭和６２年度整備 内郭部　建物遺構表示



完成

建物表示　礎石据付
SB02・03・08

建物表示　界石・縁石据付
SB02・03・08

建物表示　砕石転圧
SB02・03・08

建物表示　粗粒度アスコン舗装
SB02・03・08

建物表示　完成
SB02・03・08

建物表示　礎石据付
SB05

昭和６２年度整備内郭部　建物遺構表示

建物表示　界石・縁石据付
SB05

建物表示　粗粒度アスコン舗装
SB05

建物表示　界石・縁石据付
SB12

建物表示　粗粒度アスコン舗装
SB12

建物表示　完成
SB12

建物表示　界石・縁石据付
SB14

建物表示　砕石転圧
SB14

建物表示　完成
SB14

昭和６２年度整備 内郭部　築地・石積・敷石遺構復元

築地成形

築地出来形

石積出来形

敷石遺構石張
SZ15

張芝

昭和６３年度整備 内郭部　北辺土塁復元

北辺土塁　盛土搬入

北辺土塁　法面整形

昭和６３年度整備 内郭部　北辺土塁・脇土塁復元、段差表示

北辺土塁　張芝

北門脇土塁　整形

北門脇土塁　張芝

北門脇土塁　石積 01

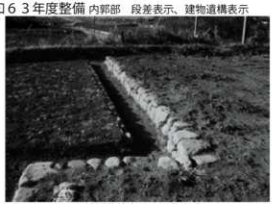
北門脇土塁　石積 02

敷地内張芝

内郭部段差表示　石積

内郭部段差表示　石積裏込

昭和６３年度整備 内郭部　段差表示、建物遺構表示


内郭部段差表示　石積完成

建物表示　礎石基礎　SB20

建物表示　界石・縁石

建物表示　砕石転圧

建物表示　完成

北門木橋橋脚設置 01

北門木橋橋脚設置 02

平成元年度整備　内郭部　北辺土塁・脇土塁復元、北門木橋整備

着工前

完成

北辺土塁　盛土搬入

北辺土塁　法面整形

北門脇土塁関連　石積 01
SX48(SA06)

北門脇土塁関連　石積 02

北門脇土塁関連　土羽打ち

北門木橋　橋桁設置

平成元年度整備　内郭部　北門木橋整備、北門内兵溜復元、植栽など

北門木橋　防腐剤塗布

兵溜　盛土
広庭 SC01

兵溜　石灰散布

植栽　サツキ

植栽　イヌツゲ

植栽状況

排水設備

平成２年度整備　内郭部　建物遺構表示、電気・水道整備、園路整備

建物表示　砕石転圧　　焼土 SS02・03

建物表示　アスコン転圧　焼土 SS02・03

建物表示　完成　　焼土 SS02・03

水道管敷設

電線敷設 01

電線敷設 02

園路整備 01

園路整備 02

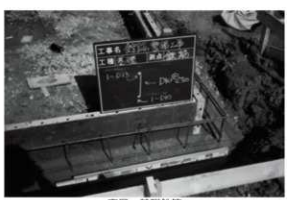
写真図版２２

平成２年度整備　内郭部　植栽、水溜復元、東屋設置

植栽

水溜　完成　　SP01

東屋　基礎砕石転圧



東屋　基礎鉄筋

東屋　基礎出来形

東屋　礎石設置

東屋　束石設置

東屋　礎石・束石設置完了

平成２年度整備　内郭部　東屋設置

東屋　建方状況

東屋　柱・礎石接合部分

東屋　屋根 01

東屋　屋根 02

東屋　作業風景

東屋　完成

写真図版２４

平成３年度整備　内郭部　内堀・東門整備

着工前（土塁・堀）

完成（土塁・堀）

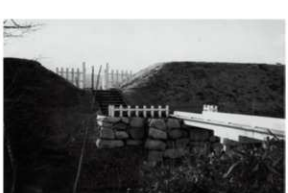
着工前（北辺内堀）

完成（北辺内堀）

着工前（東辺内堀）

完成（東辺内堀）

着工前（東門）


完成（東門）

平成３年度整備　内郭部　北門・内堀整備

着工前（北門）

完成（北門）

内堀　法面整形

内堀　法面張芝 01

内堀　法面張芝 02

園路成形

園路　転圧

園路　完成

平成３年度整備　内郭部　階段・北門・東門整備

東門　階段床付作業

東門　階段完成

北門　砕石転圧

北門　建方状況

東門　床掘り

東門　砕石転圧

東門　建方状況

東門木橋　橋台石積出来形 01

平成３年度整備　内郭部　東門木橋・遺跡説明板設置

東門木橋　橋台石積出来形 02

東門木橋　コンクリート基礎出来形

東門木橋　橋脚設置

東門木橋　橋桁設置

東門付近　防護柵　砕石転圧

東門付近　防護柵出来形

遺跡説明板　コンクリート基礎出来形

遺跡説明板　出来形

平成３年度整備　内郭部　遺跡案内板・名称板設置、引水工事

遺跡案内板　建方状況

遺跡名称板　出来形

遺跡案内板　出来形

引水工　水道管理設 01

引水工　水道管理設 02

平成４年度整備　擁壁改修

擁壁改修　着工前

擁壁改修　完成

平成４年度整備　トイレ・管理棟設置、内堀張芝、擁壁改修

トイレ・管理棟　着工前

トイレ・管理棟　完成

内堀張芝 01　着工前

内堀張芝 01　完成

内堀張芝 02　着工前

内堀張芝 02　完成

擁壁改修　切土

擁壁改修　石積 01

写真図版３０

平成４年度整備　トイレ・管理棟設置

擁壁改修　石積 02

トイレ・管理棟　丁張

トイレ・管理棟　鉄筋配筋

トイレ・管理棟　コンクリート基礎出来形

トイレ・管理棟　建方状況 01

トイレ・管理棟　建方状況 02

トイレ・管理棟　内部 01

トイレ・管理棟　内部 02

平成４年度整備　内郭部　石張、案内板・名称板出来形

石張 01

石張 02

遺跡案内板

遺跡名称板

平成８年度整備　外郭城　土塁ＳＧＡ０１

着工前

完成

平成８年度整備　外郭域　土塁ＳＧＡ０１

土塁ＳＧＡ０１丁張

土塁　盛土

土塁　転圧

土塁　石灰散布

土塁法面整形

土塁　出来形測定 01

土塁　出来形測定 02

平成８年度整備　外郭域　土塁ＳＧＡ０１、水路ＳＧＤ１２、堀ＳＧＤ１６復元、張芝

張芝用ネット設置

張芝種子吹き付け

土塁　出来形

水路　石積　　ＳＧＤ１２

水路　玉石積出来形　　ＳＧＤ１２

堀　掘削　　ＳＧＤ１６

張芝 01

平成９年度整備　外郭域　東屋設置（ＳＧＢ０８）

東屋　丁張

東屋　砕石転圧

東屋　基礎コンクリート打設

東屋　基礎コンクリート出来形

東屋　建材搬入

東屋　建方状況 01

東屋　建方状況 02

東屋　建方状況 03

平成９年度整備　外郭域　東屋設置（ＳＧＢ０８）

東屋　建方状況04

東屋　屋根工事

東屋　茅葺状況01

東屋　茅葺状況02

東屋　棟作り（杉皮・棟竹取り付け）

東屋　小舞掻き

東屋　荒壁付け状況

東屋　荒壁付け完成

平成９年度整備　外郭域　駐車場整備

着工前

完成

埋め戻し　土搬入

基礎砕石敷きならし

平成９年度整備　外郭域　駐車場整備

U字溝敷設 01

U字溝敷設 02

小舗石舗装

目地モルタル詰め

柵・門　設置

柵・門　防腐剤塗布

柵・門　土間たたき工

柵・門　土間たたき工完成

平成９年度整備　外郭域　駐車場整備

生垣設置

車止め設置

遺跡名称板設置

遺構名称板設置

アス乳剤散布

養生砂散布

完成状況

歩道完成

平成１０年度整備 外郭域　建物遺構・井戸遺構表示、木橋・階段・生垣設置

南側家臣屋敷主屋ＳＧＢ０２完成

北側家臣屋敷馬屋ＳＧＢ１１完成

南側家臣屋敷井戸ＳＧＥ０２完成

木橋　完成 01

木橋　完成 02

階段　完成 01

階段　完成 02

生垣完成

写真図版４０

平成１０年度整備 外郭域　建物ＳＧＢ１１表示

地縄張り

根切り・床付け

砕石敷きならし

砕石転圧

捨てコン打設

ベースコンクリート打設

基礎鉄筋配筋状況

基礎コンクリート出来形

平成１０年度整備 外郭域　建物ＳＧＢ１１・ＳＧＢ１０表示

埋め戻し　　ＳＧＢ１１

砕石転圧　　ＳＧＢ１１

柱・土台組み立て　　ＳＧＢ１１

コンクリート敷きならし　　ＳＧＢ１１

木質系チップ舗装　熱ローラー転圧
ＳＧＢ１１

舗装　検測　　ＳＧＢ１１

地縄張り　　ＳＧＢ１０

砕石敷きならし ＳＧＢ１０

写真図版４２

平成１０年度整備 外郭域　建物ＳＧＢ１０表示

基礎鉄筋配筋状況

基礎コンクリート出来形

柱・土台組み立て

コンクリート敷きならし

コンクリート転圧

コンクリート仕上げ

木質系チップ舗装　熱ローラー転圧

木質系チップ舗装完了

平成１０年度整備 外郭域　井戸ＳＧＥ０２表示、階段設置

根固め

石積状況

石積完了

柱・土台組み立て 01

柱・土台組み立て 02

屋根工事

階段予定地　掘削

階段　丸太杭打ち

平成１０年度整備 外郭域　階段・生垣・遺跡案内板・遺構名称板設置、植栽

階段設置状況

竹垣設置

竹垣結束

植栽　キンモクセイ

植栽　キンモクセイ　植込み状況

遺跡案内板設置状況

遺構名称板設置状況

平成１１年度整備 外郭域　堀ＳＧＰ０２・水路ＳＧＤ３２・３４復元

着工前 01

完成 01

着工前 02

完成 02

埋め戻し・盛土

盛土転圧

堀・水路縄張り 01

堀・水路縄張り 02

平成１１年度整備 外郭域　堰ＳＧＰ０２・水路ＳＧＤ３２・３４復元

堰　玉石積根固め

掘削

掘削　法面整形 01

掘削　法面整形 02

重機による法面整形 01

重機による法面整形 02

張芝

目土

平成１３年度整備 地形復元盛土、井戸ＳＧＥ０６被覆

着工前

完成 01

完成 02

盛土客土搬入

石灰散布

敷きならし・転圧

盛土面整形

写真図版４８

平成１３年度整備 外郭域　地形復元盛土、井戸ＳＧＥ０６被覆

盛土法面整形

人力による盛土法面整形

石積井戸ＳＧＥ０６保護　盛土

石積井戸ＳＧＥ０６保護　鉄筋

石積井戸ＳＧＥ０６保護　コンクリート打設

石積井戸ＳＧＥ０６保護　出来形

石積井戸ＳＧＥ０６保護　蓋設置状況

平成１４年度整備外郭域　建物遺構表示

着工前 01

完成 01

着工前 02

完成 02

建物遺構表示　掘削

建物遺構表示　床付検測

建物遺構表示　転圧

建物遺構表示　基礎砕石流し込み

平成１４年度整備 外郭域　建物遺構表示

建物遺構表示　基礎砕石転圧

建物遺構表示　基礎コンクリート打設

建物遺構表示　砕石敷きならし

建物遺構表示　砕石転圧

建物遺構表示　表示組み立て

建物遺構表示　透水性コンクリート敷きならし

建物遺構表示　木質系チップ舗装

建物遺構表示　自然砂舗装

平成１５年度整備 外郭域　建物遺構表示、水路ＳＧＤ３４復元

着工前

完成　ＳＧＤ３４

建物表示　着工前　ＳＧＢ５０

建物表示　基礎鉄筋　ＳＧＢ５０

建物表示　基礎コンクリート　ＳＧＢ５０

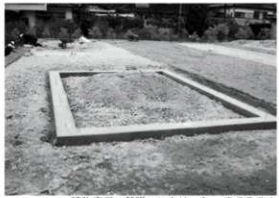
建物表示　柱・土台組み立て　ＳＧＢ５０

建物表示　完成　ＳＧＢ５０

建物表示　着工前　ＳＧＢ５１

平成１５年度整備 外郭域　建物遺構表示、盛土地形復元

建物表示　基礎鉄筋　　ＳＧＢ５１


建物表示　基礎コンクリート　ＳＧＢ５１

建物表示　柱・土台組み立て　ＳＧＢ５１

建物表示　完成　　ＳＧＢ５１

盛土客土搬入

盛土　石灰散布

盛土　転圧

盛土　法面整形

平成１５年度整備 外郭域　水路ＳＧＤ３４復元、水抜きパイプ設置、張芝

盛土　法面整形

水抜きパイプ埋設

張芝

張芝完成

平成１６年度整備 外郭域　ＳＧＤ５６・６７表示

着工前 01　SGD56

完成 01　SGD56

着工前 02　SGD67

完成 02　SGD67

平成１６年度整備 外郭域　遺構名称板設置、ＳＧＤ５６・６７表示

遺構名称板　基礎コンクリート打設

遺構名称板　伏設

遺構名称板　完成

不陸整正　　ＳＧＤ５６

不陸整正　補足材搬入　　ＳＧＤ５６

不陸整正　転圧　　ＳＧＤ５６

外堀平面表示　舗装敷きならし　ＳＧＤ５６

外堀平面表示　舗装転圧　　ＳＧＤ６７

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきかつぬましやかたあと
書名	史跡勝沼氏館跡
副題	環境整備事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書　第８集
著者名	入江俊行
発行者	甲州市教育委員会
編集機関	甲州市教育委員会　生涯学習課
所在地・電話	山梨県甲州市塩山上於曽１０８５－１　０５５３－３２－５０９７
発行日	平成２３年３月３０日
ふりがな	しせきかつぬましやかたあと
所収遺跡名	史跡勝沼氏館跡
所在地	山梨県甲州市勝沼町勝沼２５１５－１外
市町村コード	１９２１３
位置	北緯３５度３９分３３秒　東経１３８度４３分５５秒
種別	城館
主な時代	中世
主な遺構	土塁・堀・礎石建物・掘立柱建物・水路
主な遺物	土師質土器・陶器・磁器・木製品・鉄製品
特記事項	

山梨県甲州市
史跡勝沼氏館跡
―環境整備事業報告書―
２０１１
編集　甲州市教育委員会　生涯学習課
山梨県甲州市塩山上於曽１０８５－１
０５５３－３２－５０９７
発行　甲州市教育委員会
平成２３年３月３０日
印刷　株式会社　峡南堂印刷所